



特別
~ 12
1077
23





利
1077
2273



王鬻男

廿五歲

紫上廿七八之由見此卷

實其人之

夕白上離別以來事

王鬻男君四歲時伴少貳下向筑紫事

源氏十七歲

同君十歲時少貳辛去事

源氏廿三歲時

同君廿許時肥後國大夫監念王鬻男事

源氏廿三歲時以上八事

三月大夫監來少貳館事

今年王鬻男廿二歲也

四月玉鬢方君逃筑紫上洛事

故小貳北方兵部君豐後介宰相事

九條取宿也

秋玉鬢方君詣八幡并長谷寺事

於長谷寺逢右近君事

右近君歸參六條院詣申玉鬢方君事

源氏君遣文於玉鬢方君方事 有返哥

同君先渡右近五條家事

十一月同君渡六條院良町事

以在傳方為後見

其夜源氏君對面玉鬢方君事

年暮賦裝束於人方事

紫上花散里玉鬢方君未摘花明石上宮輝尼君

未摘君唐衣歌事

和詩髓髓等事

玉鬘方

秘伝歌鳥卷名

河原氏

あひとふがはれまはなれむら

いりふすら成る口さあは

け巻ハシ女の事しめり身とそくは案

院中あやの三月より十二月まで乃

事成りしは凡々白上ハ丘条れり

よて源氏者もあひおてなありし

院まで物あけしれむかひ

竹しるれ時ハ女ハ十八源氏ハ十六ハ時

の事やそれなりな事致はのた
まゝに申おといひし時はおひ
まゝにれ考とはまゝにけゆるは
れにのりおまゝにやまゝに
の男大宰少貳め成て下し
きて肌布まめして女をせり
ゆる肌後國よちまの望て
おまゝにけ女まゝにひけ
やまゝにけしは倭まゝに

らひてまゝにけのははし
てたにまゝにけおひて
ちか後へはひりまゝに
督方まゝに女にのりまゝ
まゝに世にゆるは女七
上の女七はまゝにけまゝ
たまゝにけまゝにけまゝ
名にゆるりまゝに名に
まの三月より十二月ま

夕日ノ暮ニ夕雲のふひひしくむつ式ハえ
ありこのらん夕雲をぬく雲ありとを

——つら

松

け敷湯未橋春の似たり然も公りら
カ者しめて面白しとて未橋春ノ
心ハ者陸文ノ事ハ成りてり夕雲の
似たりひんり人ともとをひてなる所
心ありけき乃心としけさ東院と題
ありてきてしけ院の西ノ夕雲の在せれ

らん一方ハぬくけゆらあとしを
しりあまきしなはしうくまひ出
ぬくくえゆらぬハ敷湯いさか
つさあれやうりうりけ事法妙ハ何
乃んまうと

松秘の姿を仰て行へ面白し

心くたり人れありさぬ

心くたり人のよく夕雲のちりあられ
さやせむるは海のもの

あつちうーうー

何拾の札

せうよにうーうーはしきよひと

たのまいうおほくーぬみけろく

はすの札は軍式部大臣の所人

為流すくわさ一義夫ぬるの札

すうーうー伊勢の流す平の札

去白野れふは東のすう衣の札

うーうーれすは中野のすうてはる

たち尺よよりらすり流ぬぬー

所ぬぬ而業平ハえきえ年正月廿

八日卒^卒其時た大に^卒寛平七

年八月廿六日薨^卒今是等の日

時未とんさめぬく倒く

松はを陸テ用あふ事

右をい何のんすうあし

^秘夕親上の後ひくすうり

ぬふんすう

年ううううううううううう

いまの雨うり河ひのかと

^秘けるうははまるとれぬこいよこし

かろくうひそあころ

ひせむい潜くまのひやううの辨我

出さうは潜おと子うら

潜龍勿用は徳徳而隱

夫は此類早し心はあさう

如君とあり

右ととれぬしはまのぬか

かろくうひそあ

右通うを

故まの

又魚乃事成をといふ

系尻へこいれぬ河ひ

そ

さうりうさいぬ

お

源のぬか

一を説く

ひとくは物とてひつこく又しつこくよも
なれ事しめりててりるものすしれと

大上のとこれ山をふりや川

いさしあふててりるものすれ

川舟はく 夕白上のいさし

かしくぬるれし人のとくは

つこまぬるしとをながりつら

ゆさそとをさるるしをぬるる

右軍へん善けり物すしてあつみ

むろくれり清とをぶるれ

れりれりの男少戴ふゆて

^秘 夕白上のりれりし事曰

^秘 職負令曰大宰府 ^{ユトモ} ^{ナラワカ} ^{サカト} 少貳二人常内貳

むろくれりのしり男少貳みなるけ

も夕白上のりれりし事曰

は軍までみすのけしけけ者

へのがせをりてあつる

おんあしりともていひ

かろより君のあまなる可

むろくまのついでにたよ

く君のあまもいふ

めあとの夕島とよとてみは新

——

ろろろろろろ

むろくまのついでにたよ

いふ

れらくま

秘

致仕のせしめぬの可

ろろろろろろ

夕島とよとてみは新

あ

ろく君れおろくま

ひね

致仕のせしめぬの可

上乃り清とよとてみは新

おまらるるに
さぬ

海にうきとされはるる

^秘又まらるるに

こころを

^秘又まらるるに

まらるるに

まらるるに

^秘葉内にてまらるるに

おのまらるるに

まらるるに

まらるるに

まらるるに

まらるるに

まらるるに

まらるるに

まらるるに

^よ葉あひれ便紙あり

こねえ

木さゝらゝいぬからりり母をよとてけす

まろくたふき夕島上女の聲

いさゝかねあはれいあつー

むすあももあひさうあ

あ武女カヨウキト婦の伴を初者おきんは

あてらうしてはるし

ねみらねーと

船路ハ一服とおいひすう半あつー

ぬたり

おしーろさいせ

るすうた海よりあ

んーろーおつあ

^秘夕帆上れ事とあひいそそらう

おつせうーはまねうんーさうし

^秘まろくたふきのあつーの河へ

け河弁と有れ初ノ船共河海をあ

其況不同じ海況ア就ーいすなハおつあ

まうしうしういふはとくまのうらむ
ありし書あはまふ従よまはまふ
ふは必おろしすきすしむら女ちかの
なうしうしうの上まはれぬのうらむ
まうしうしういふはとくまのうらむ
奇 書あはまふ従よまはまふ
ふは必おろしすきすしむら女
まうし

神正月時ぬらふあせくしうらむ

まうしうしういふはとくまのうらむ

松河もみぢノ義ハ二月のうらむ
け秘ノ義をぬらむ
あはまふ従よまはまふ

かひはとくまのうらむ

あはまふ従よまはまふ

あはまふ従よまはまふ

あはまふ従よまはまふ

秘
あはまふ従よまはまふ

此のしんしん事不審と視て不同
け儀昔大人をいふくありきし前
ノ視しもして多くししは女同を
松事し何の義もれしは有娘
弁ハあひしりし次の言ハあて
母言
うらむふらむ

弁
おのせもしは我ハくし
多少哉くくもし書はしし
イトノ視じすありめは
母言

私ハはわりれ事ノ義ハ

ひれのもろれよとのし
おひらやひさの
あまのあくとれ
ひかハ夷ノ田舎の
私ハは

何
但し載し
武物云南海一多あり離と
成長の時おきくは

手ねい五、ゆきもつとふれと公家乃
列とつて、漢朝故事の孔子
を衛國用桓山之鳥生四子羽翼成傍
離悲鳴以相送としりこれと鳥言
すゆめし韻も傳もれと平ん

のみなんとてとれとれすま
何 筑ち國

何者かはくしりこのみとれと伝ては
人れつと我もひとれ

万七
ちとわふかこのみとれと

我のすれすまのりす
ちとわふかこのみとれと
都はとれと

のれつと筑ち前ゆとれと
多の事とと

のみなんとてとれと
沐といはれしけり一都内
沐といはれり

此後めいしんくもくろあまのりあまのりあまのり
河くはるのりあまのりあまのりあまのり
後まてあまのりあまのりあまのり
ふりりしあまのりあまのりあまのり

必多クノりあまのりあまのりあまのり
靈氣れあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのり

お武めしんくあまのりあまのりあまのり
^秘お武あまのりあまのりあまのり

河 仁徳天皇四年始置諸国史 仁明天

皇承和元年七月勅諸国守介云以四
年可為限但陸奥出羽大宰府是云管
国始自筑前等遊在子里以五今年可
為任限云天平十五年十月幸郊始置
鎮西府室字二年九月丁丑始以百廿
日為交替程十月甲子国司以四年為
任限国史室龜十一年八月庚申大宰
任限增為五年

あしうらひいぢひるれ人の

道のなほしとくつひいさか

私ガ武の他任んの得方さしとこのみな

りりーあや

るふむりく 秘 縁ーさるし

さあしとくつひいさか 秘 武ノ心

この若りすくつりあし

秘 武ハ任浪めく年あれハたつすく

あーーむ日

私任浪ることとあせりあれは

やうなうー

秘 武任五年あつてト向

武さくしとくつひいさか

ガ武のいさか

さくしとくつひいさか

むろつれ又さるし 秘 武のいさか

よのこい三人らうま

秘 武のいさか一人ハさし後かこ

うゝゝゝ

私が武のうゝゝは(えい)

うゝゝのけい(えい)

おやの孝(えい)

はらうのけい(えい)

その人のあひ(えい)

我(えい)

おゝゝ(えい)

あゝゝ(えい)

ふゝゝ(えい)

か(えい)

お(えい)

く(えい)

の(えい)

こ(えい)

お(えい)

は(えい)

お(えい)

其年春者於年有三ヶ月所諸天帝
釈為其主領四天下檢計衆生所作
善惡其正月廿日向南園浮提二月赴
西瞿耶尼三月行北瞿檀越四月十日
東弗婆提也天帝以正五九月巡向南
列註記衆生作業云
後撰弟大年皇女こみよとて女禮越の
りしりすとりて約そくてつ
るきり

惟濟法師

百々せんやりとせれ入てめりとは
玉れとうとまるとうとうめや

松一年乃のめは正九月二月
ハ六廿日りういふ若松うく真れ也
下りしと松きうとうのめやれとむ

父女んりになり始

玉とうとうと

このすむはひひの國

何ともしれおあまはたすりん并一期目也

大吏タリのきんとしてひこのあま

大宰府一員、師權大式少式大監六藍

二人大典少典大ナ令史オあり、武叙爵之

時サ卿と云件監叙爵の時ナ又監と号

と大監者正六位下サ監ハ從六位上相當也

有軍監軍者有東監者有西武八官八

大監ハ正六位下相當れ友なれは從五位下

二叙ニしぬれハ大吏タリ監ニと稱ひる也

監ハ大宰ノ大監秘し相當六位也ニつひ

中監中也て叙爵一一々一ば叙る

あつ成ち大吏監一と云ふ

大宰ノ監一あつもの叙爵一と云ふ

獨りて一心

ごうひり

一類のひり一と後一のま一を一辨一して

せつ一ひ一ま一の一ら一也

あり一と一ひれ一の一ま一と一辨一して

う一ら一あ一は一也

しらののれをかこらあし
らきこあわ
まろくか
て監のい
尾よあし

けまわりのまよて尾よあし
ゆいしんせれとあまを
みりこま
ころのい

おれみ三人とひて
ぬ

^秘おれみ三人とひて
何もしひあし

^秘ぬりい
う

がれよのこ三人あり
の監ま
かろりい

ふりていそし

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

あしむて幸す人はいちるの事よ

豊後外又ノ邊ニ云々

此ノありしなり

女ムスメハ云々

若れいふ

夕鳥ノ上ノ行末

若れせめて人あり

てと皆し

さうりの中

監事

をげく

柳 ちま監

むのり

そり

せり

とほ

共トモ嬭メ其ノ説ト 存タリ 輔ト相

あり

と

わある人の又の同てさうさうさう
とみみきゆいさるの世さうさう
あうさう

^秘考経序共^上其説然ほを以難之乎
跡ハさうさうさうさう

さうさうさう

或説説^中ハ同サハハハハハハハハハハ
さうさうさうさう

私秘抄、考経ノ序ハハハハハハハハハハ

きみさうさうさうさう

さうさうさうさう

めは

用さうさうさうさう

みかさうさうさうさう

さうさうさうさう

さうさうさうさう

サうさうさうさう

監うさうさう

しるし

おんみこいそあよ

可 祖母殿

花 故お式ノ書ニおつしれまことむかひ

のせふまらりて祖母殿にいばし日

秘 心もわつししはち又監るをとなつ

——

この式乃りしあきけび

秘 ち又監る初し

さうん——

尸を廿四行にわらふよお式の初め

——

おんれかきりしよしつまつらるる

秘 威文く 女房

志とらげりし

り武人の志れまはにちのりあし
ひらりしきあまこもいひのりあし
ふ志とらげりし

これおりのまよりん女房より
姫君の一位位よりおんよりあし
いし

いしあしあし

監りわがびりし

おし
秘 おんれ

志とらげりし

女房よりあし
いしあしあし

是の我をれ
いしあしあし
いしあしあし

ていそ

まひりうそ

まひりうそ(秘)

ひりうそ

等輩(秘)まひりうそ

止(秘)まひりうそ(田舎調)すまひりうそ

なまひりうそ(秘)まひりうそ(世俗)まひりうそ

調(秘)まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)まひりうそ

一(秘)まひりうそ

松前ノ義成用(秘)

まひりうそ

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

まひりうそ(秘)まひりうそ(秘)

松 ちまたの関

天下ニカの月つれあはれまはるるも

昇 ともししとらしとらよむと一監の関

松 天下ニカ音ミのミ奥ミはわろしとる由

会人の関

はらうらうらやそんらあらみ仙林の

いさりのさよとれとらんらん

國中の仙林も皆うらまなれはるあ

中人のさよよいよあ

うれ日々かりとら

るや切不盡よいははむらんらん

とら

二月のまはれん

松 二月ニのまはれんその月を流るる

まはるる南府とらひのれせよあ

三月ミ春季の流るる終る月世流

憚る

かふらひら

季ノ所此月と云式ハ心平氣和

ソリ

更盛
まゆ^りも心こりくまうなるの汁
とけてらくん

或古老物語云式家始祖宇合一男廣
繼於西府謀反以大野東人爲官兵令
攻彼等之時廣繼自以刀切頸其頭昇
空墮殺官軍成赤鏡見之人悉死云
肥前國松浦郡明神也 見式家
系圖

風土記曰昔者氣長足姬尊在此山遙
覽國形而勅祈之天神地祇爲我助福
使用御鏡安置此處其鏡即化爲石見
在山中因各日鏡山

あさうすたれくう男乃心あす肌
あまのまうりゆけうう優まはしよと
てゆりう造りよまあう
そとんしよふんくうのうなれ
かふんの山やうまうん

肥前國松浦郡鏡明神ハ太宰女尊有崇
廣継ウ靈シ

又かた人のふハ神功皇太后の靈化して
石しねまきりくくみれ山しつりきき
後れ神しつりくくみれ下の洞小松浦
皇海日社ありしつりくくみれしてハ石
清の八橋し日所のりくくみれゆり志
くハ後の神女ニキキくくみれよしと
鏡ノ明神とキキくくみれくくみれ廣継

ハ清ノ皇ハ布ノ一折ノ奥ノみありハ神功皇
后あり 新千載多載くくみれくくみれ

松之木はまの五文字まのくくみれ

めけり

二乃^わくくみれハ^新は^新くくみれくくみれくくみれ

ゆりし自移

くくみれくくみれ

監りくくみれ

あれがさしほりねい

あれがさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

あはれさしほりねい

ふうけせきりきよよとてさうくくくくくくくくくく
^秘 監ふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
やしありくくくく 軒ざんちのめく
さうくくくくくくくく

じすあさうくくくくくくく

^秘 まくままらうくくくくくくくくくくくくくくくくくく
らひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さうくくくくくくくく

ころくのぬらうくくくくくくくくくくくくくくくくく

らハばくく

^秘 ^昇 出うくくくくくくくくくくくくくくくくくく

^秘 けんれくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
れくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
伊勢物語春の節りあまのの例也
^よ くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

らるるしと云ふはなほくはむけりたるか
むすめものこもあり

松こゝろと云ふかへしこゝろに監乃
やうあり幸にほりしをよきつらむ
てハ後非ともうみよきよはむ
くこゝろし

^子されの方と云へて女これこゝろし
そ心ハ行か心ハ幸しふらとこゝろ
こして川たぐる津とありしとみんとし

め共一處と云をえて月例あり
くえゆしはくく一筆一報の
并くくをれありはひあひあとい
ゆるあり

武女れいよけありは監人ありむね
うれしと幸なれしは川とく
こゝろ人なれはみ始りしは
けりこゝろ松浦の後の津ありと
ふありし布ぬしとみ監りけりし

そぞ

れがけくーまんの

おはせーれけれまのけくまひん
すそけーくれい老ひひみそわん
にささくふとせもせくめて降る
せせれさくはひいし

私けきなる不審こすろまおまのひ
はるうあつとらひしはひいし
よらめりとしひり年入年りてはれ
そふめくならしきさぬとみ

おはせりくしあつて

とくはさく領細くはさく年物

浪小波いこふりれこふり河あつさ

日一

似伏すこしきりくこいせあめいこ

おききれくらつさくれ

武侍流け頼これのこひはあめあ

く他きなりうりうりあめあ

なめうらわ中ひさりこ

うら力れとなしこふりあめあ

又いぬし

監視又奇をうみこさしとふりあ
あめあ

二部うかこひさくれこ

あめあこらう子あこらこ

ぶこの外とせむれ

たのこあふ人こそはあこ

そいつうらりあこ

そし後あこ

あれくのほこ

あいらカラ
親 万才八

秘

礼

ふさぐれ兄がりりあふん

あふん兄がりりあふん

けきんよあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

けきんよあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あふんあふんあふんあふん

あてふまへよすの何れもよすめり
そらうらうらあまんね

あてふまへよすの何れもよすめり
^秘末のいりうら

丈夫の監いひよすめり
^秘このねよすめり

あてふまへ

あてふまへよすめり
うらうらうらうら

あてふまへよすめり
あてふまへよすめり

あてふまへよすめり

^秘あてふまへよすめり
あてふまへよすめり
あてふまへよすめり
あてふまへよすめり

監のこころつてはてふゆゑに遊ばせし
うつくさてふやねまゝのこころ

るやねといふ物

るやねの艦とせりしうと云船るあ
方れせういふ八らちとすちやまじて
乃ふれしとせりしとては海賊
舟八郎とせりしとてくうとてあ
るしゆとせり
あしとやとね 万葉集七

舸 四聲死去古我反 倭語抄云波夜市祿 高尾舟一云載士可乘

之輕舟也

るこやれの自物給云女氏がめはのせそ
まうしとやねつはとせりしとせ
あしはみ水とせよひしとね 羽根
るやねのよはひみとせりしとね 羽根

あしとせりしとてはのりぬ
乃風つてあしとあやしとあし
とせりし

ひきまのあしあしとみすれいそふ
あやほし

はなのよしと船出せしと伴依奥と

は法舟のなごしとみつる舟

集あふ時ハすみの後れふまは

ひきまのあしと流りしと海よ

忠貞集とてとみまのあしとみつる舟

流りしととみまのあしとみつる舟

いそ乃の河あはしとははのおふと

とつり然ハ南か右はれ袖中抄取照云

とらまのあしとハ播しあり依流まは

とこれあしととみまのあしとみつる舟

徳四年六月十一日是日備前備中淡

路等飛彈至備前使申云賊二艘純な

從ヒキナ歸者奈多拾舟脱道疑入系云

とまのあしとれ海賊のまは香りしと

れ西航ありしと何とみまのあしと

とまのあしと名まのまは得前しと

きりぎりすのこゝろにみれりうすく

きりぎりすのこゝろに

あまのこゝろにけしきよきうすく

何部等

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろに

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろに

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろに

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろにけしきよきうすく

あまのこゝろにけしきよきうすく

こゝまゝにのりて

胡北コのせりチとはむありくすてすての

梁原郷井不得見胡地畫見虚弃捐

白氏文集

縛戎人

多し村介らうらみ氏折しとまどそひて

けむ紙浦しきりく

豊後介のらうらみ又集縛戎人詩の心

くお似り今篇をくく

齊 從漢攻胡之時漢人上胡不得歸漢軍

敗之後、又從漢攻胡之時上胡之人欲

歸漢也此時弃胡妻子而漢人不被人

剽圍之號敵国住人也仍西国無使之

意叶物語ノ喩云

私文集縛戎人詞也 以上齊

此心ハ漢ヨリ胡国ヲ攻ラシニ漢ノ軍破

シテ多ク胡国ニ止タリサテ多ク年居

テ妻子ナトモ有リ其後又漢ヨリ胡ヲ

攻ラシニ時此者共漢へ歸リ多ク思ヒテ

位つるもなふかれてお白の海と心乃
志のまほりし行来れこそ好しと
かこみたる

こころをも

秘 玉うけりし

いときこぬ

秘 京へ入る

九条まじりし 忘れぬ

めのくれ忘れぬ

あやしきつらあまの

は 市女商人

都の内好しきかこやうれせ

秋もよみりし

秘 三月よりまひらてのちの夜も

して秋もよみりし

ぬこのみりしものりしとくもれぬ
みゆりし

如真敬題 右陸似鳥雀之霞霞草 古歌文

女又の物

花
日記 莊子ノ奥ノキミ人トシテウツクニ
けらす一説別ニモトク

秘
古奇さゆくニ花鳥が物もあつた
み及くす開之雅鳩在河間しつる
とゆふもさるれい只らくし
くみゆく何しハハ
鳥のうらみ物とれく
るもさるくみあが

私に書むる花

心もいれくしそら
そねあつた
まこひさし
そねあつた
わぐあ明くれあけ
そねあつた
なよこの身かいらし
そねあつた

さしと

人々より乃

玉皇方

きふおの中みま

玉皇の御監ありまありせなりては
そは今いふやうのいふをひまかり
てはららやうにまてはとて
やうのまてはらうにまてはらうの
はらうにまてはらうにまてはらう

宮海八幡松浦文ありの宮海丸

風土記云神功皇后御鏡石ト成ラ鏡山

トトスト見エナリ仍一體ト云也

延喜廿一年六月廿一日於觀世音寺

西大門託宣託

畜寺講師
遺一託也託若宮神子

七

女子梅
滋子給

曰吾是八幡乃若宮一子也大

菩薩作云吾穗浪郡大分宮移住後已

有三意一者竈門宮我伯下所坐而弁

中節會府官以下司難任年未之

向暗之輩或乘馬天過途拜下或下若

笠渡被御前其御恨甚有忍二者郡司
百姓饗膳供給在越嶮坦山教日致煩民
間苦同我苦三者放生是海上之事也
穗浪宮已非放生地因之避彼地欲移
住宮崎松原有其故昔我國土鎮護
始時戒定惠宮彼松原地所置也仍其
名ハ宮崎ハ號也ハ宮崎新宮可向
新羅國方又礎面書敵國降伏之由可
立其柱宮殿梁棟可用栢木可安置藥

師弥勒觀音等像奏聞公家早弃穗浪

古殿移坐韓宮崎宮者署記文大貳藤

原當韓朝臣言上家任官府旨少貳真

材朝臣造立件新宮其官府狀云

託宣之旨為御示所來寇加之外賓通接

之境也其宮殿殊尽養麗者 延長元

年遷御宮崎新宮

宮崎宮ハ筑前國ニあり

神功皇后鏡を増給ハなり

秘 花

舟

岩波ハ八幡日新ノ松浦寺

在河内府高市郡
高市町

又此寺ニあり

因松浦岩波ノハ只ツテけていひらるる

ノ由成ルル也

肥前ノリノ多ク此寺ニ立札之今も尚

社ナレハよく八幡ノ美事ト云

うとて

何

八幡文五師

何

貞觀八年別當安宗之時以運如法師

始浦五師安和二年別當貞芳之時以

五師貞善法師始浦大五師

花

村上御記云康保三年八月廿八日藥

師寺三綱五師相率參陣外云

舟

八幡文五師五人ノ事ハ一和五師ノ一
つとて云人年不延八幡文ノ不延法師ノ行

おそれるるひ

秘

故少武々多る人

らつてハ弘の傳中ナリ

秘

これハつて云

秘

菩薩と仰し之の有りしと之流ありは言
薩ハ日事れまは

花

長谷のハ觀音と仰し對して非は
ひありりえハ由しハ菩薩と
仰し之ハ名ヤ又觀音ハ何仰し
サリテ又ハ何仰し後一切
明功德山王仰しありて
仰しと云ふしはたハ何なり

私記前の少信及乃子菩薩と天

部と世はなとあてはん

たりと非は又は

くせふ人の口のしれららハ何とも
心のありとももたたまと

之あり

秘

縁起あり

何

縁起云長谷神河浦北豊山峯徳道上
人建立十一面觀世音菩薩之利生道
場也長谷寺觀音十一面文武天皇御

宇德尊守聖人造立之法道上人神龜元年

公家被建之堂宇同四年三月廿日供

艱請仰行基菩薩 僖宗皇帝后馬頭

夫人文宗孫玄成太子娘水のんめき平と歎

始言り 仙人れと一みりて東に向

て日女出長舌と觀者女祈請

始りり女度中一人のまき信は事云

に乘て在方より来てよとのて靴

めと面は瀧とて忽小客の湯正

ふたりりよけり因茲乾符三年丙申

七月十の侍女と川幸して明列

の体よ出むひて十粒の宝物とて

ら付とて又吉徳去后入る時長舌と觀

る位長明神女祈請して神馬卷

と讀きり具瑞河内り一の経のみり

とていふおれさうひとて

秘をあしひひれり我女の人れまて

いそいでる君侯のふりこりみりふりまは
酒乃上人の聖物安徳右氏繁昌と
新多のい玉鬘方ハ右氏の人なれりて
況共ハ可月之

より若成りて

昇
我若ハむろつていふて右
氏とよりいふての心

酒乃上人 右者と建立之時右者房
向奉中御成しる波上人聖朝女
徳右氏繁昌乃至法家右者乃
より新清ハ也見縁起ハ玉鬘方

右氏乃建立しりて之

花

神龜之年二月廿三日勅依房前朝臣
奏伏祈我下給二千束為長右乃造御
料也今葉玉鬘方右ハ右氏乃流
なり若しハ右氏繁昌と清清
りハ右寺の縁起ハの縁起ハは
てしハ河ありハゆり一長云りハ
よりの人ハ新清御作されハハ
よりハとありハとありハ

みはらうの白雲よまればおてはるるは
せしきうてれはよあつりおるは
疑ひねるはしよは

しきしきうらうら

^秘 一段の雲をうらうらして

^の うかれたちあつてまよひひびて
うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうら

うらうらうらうらうら

まうのうらうらうらうら
うらうら

うらうらうらうらうら

まうのうらうらうらうら
うらうら

あつてうらうら

^秘 うらうらうらうらうら
うらうらうらうらうら

英

小右記正暦元年九月八日長谷寺

午時至椿市令交易清り明灯心黒寺

御堂修証誦布十端清り明三萬灯

今葉くつせくまふ人の清く市よし

て清り明のゆきましとりこすりまは

流の心小野まの右府の祀まあひあり

あむひもあくさくつらひ

つくとりまふまのゆきまは

つこのおまふ

このこのゆきま

秘 引いれ

ゆみやりらまふ人さり

めくまふ人

まもまふまのま

まふ人 又まふヨク

或抄 サウシニトアリ

女房あぢが か 三人つふささるる

秘 としれりともありておとせし

兄弟こゝ

秘 け秘美あやまわり

秘 あらうらうり三人の姫君も或後宮

りまけ三人の春日

秘 つふささるるハ多ありさいおゆひ

そりおとく花もよひあり拾遺集

何れも長おとくありまゝおつら

くして行むらふもの野もゆり

とみことりあり

ひさしり物

秘 大つふささるる物の名こゝ

秘 ちやまき女

或類字源撰抄に不淨と川水あり

て從てすり女こぬし子こ捕こめあり

れありと生こ好こ絹こ 秘 二幅と縫

連てふの端と好ひ合てけ丸とす

一て臂みうけて物ありてけ女氏ひ
すちりーといふすぬとハ懼ヤトアリ

大みありーの事ありていもてーくく
^秘つくしりめてて月と歩ー

^秘李部王記延長八年八月作願文違折
長谷寺奉灯明十方灯 小右記云正

曆三年二月参長谷寺奉清明十方
灯云

家ありーの事ありー

^并いせのかりしれ里しこまらぬ

人やうたてまうらんようはよ何人乃
^秘高ぬーみさうせすーてこれり

みばくーんとかーたきハありぬ
法師もてーくまといふ

^秘別のんとかしんせし物とて胎
そらたらぬ

めさありーく

きよく〜いぬ

おきくをい

松 うやうやまうらにん〜いぬ

これも〜らりみか〜り

秘 くれちを〜まう〜の事りか故の意

志を奉日

る〜らひつ〜ひうせ〜

ちとハ進歩りれあも〜源乃情風

後代より〜い右との意ひて〜

あ〜らむ〜いぬ

わ〜ら〜いせあて〜いぬ〜いぬ〜

いせあて〜いぬ〜いぬ〜いぬ〜

いせあて〜いぬ〜いぬ〜いぬ〜

小日〜いぬ

か〜ら〜いぬ〜

松 け〜ら〜いぬ〜いぬ〜いぬ〜

井 くれ〜ら〜いぬ〜いぬ〜いぬ〜

ちとまられまげふし
こりせこいれふ

まふなせ

しーしとぬぬ

ちをりそはふし
年とくしてうらむらぬふん
そらうしきふん

三葉ふたふりや

はらふおれ

ふらふら

は三葉とちとのうら

ぬぬしきふん

夕鳥とけい三葉はけす

しりれ夕氣の中し

しき

かきまらりし

夕鳥のふれ

私ふれまらりし

おまゝにれおひてふ条よりおま
の事一平次はよきまは河原流まで
せまふは時の事おやしののおも
ひまゝに人のいふに女おまははるも
りかたり

あはれやうへ

おまゝにれおひてふ条よりおま
の事一平次はよきまは河原流まで
せまふは時の事おやしののおも
ひまゝに人のいふに女おまははるも
りかたり

おまゝにれ

この女は

三条へ

おまゝにれ

おまゝにれ

おまゝにれおひてふ条よりおま
の事一平次はよきまは河原流まで
せまふは時の事おやしののおも
ひまゝに人のいふに女おまははるも
りかたり

おまゝにれおひてふ条よりおま
の事一平次はよきまは河原流まで
せまふは時の事おやしののおも
ひまゝに人のいふに女おまははるも
りかたり

花

寛平傳記云臣家有長者大者
今葉音の長者ハ昭宣云の
ウツル人の名ハ昭宣の長者ハ
きねハウキキキキキキキ
と長者ハヒヒヒヒヒヒヒ
らみハヒヒヒヒヒヒヒヒ
はヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

三葉ハ合ハヒヒヒヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

一
おハヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

からヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

三葉ハヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

三葉ハヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

三乗ういてくらぬん

権練ハ知のくすさあしくひけりも

ふまぬきそとくろくさく略しりき

じみれ蒙のさくめけ河不可勝討

権練ハ十すい解さあめの新りさうた

ゆと云の中ひりかしては神とらまわ

さああそきてはくまうけさぬぬ

そろくーは海りくさうりさあぬ

さそとくはあはわさるわ

くろく

さそとくはあはわさるわ

三乗うさあまてかるとひー

れさーのさげんれさくさあはあ

右近の三乗よいりあ

けさ

三乗うさあまてかるとひー

あら

くろく

あれうねーとさうねー

のあつひちかへーとさうねー

うんおひやわ

秘 夕鳥上へ

うらさいのまてみるねー

おとろ三葉紙さうねー

申のねーい

秘 花 とろ河舟ーいりのととん

秘 ね とつとつ武の北方とろり

秘 弄 玉うーれめのとと

りの若ん

玉うーい

あてさうし

秘 若部若ん

若乃の事ん

秘 弄 夕鳥上の事ん

秘 夕鳥上の事んといこさうん

みれおろーとさう

秘 三条の句

水まをりしれぬ

玉ころも

みらぬしうさて

木しきねかみしみかしくせうと

いしきいんころれく

秘 夕白と夜はれてけりぬくこ

まのひやゆいころれ

牛ころめりあてしあしあし

秘 ちりしりふみんころれ

老人のころれ若ハ

秘 我まの夕白と夜はり

秘 老人の夕白の夜室ころれ若ハ

乃ゆい

しらすそく線ささるばる若ハ

夕白と夜はれて乳母をくそ

けり我あしきしきとせうと

捨てしきいりけりあしきと

一 何れもいふはよらきいふのまらあは
みらのあは

真途とていふもつるまはふか
らゆいふもあはうとて

まうとていふあは 秘 一瞬と

秘 瞬とて目成はうとて

来 存命れは

ま 灯の消のこりては消てあはうとて

一 消やの消も人の存命れは



秘 ひののぬりていふは

秘 右とていふ

花の身は夕鳥のせは

とていふ

いとやまいあは

秘 右とていふ

夕鳥上げ世はまはぬあは

三人なるは

秘 夕とていふ

ひらいて
くわいひるり

私にれあられとらしくいさめ
の中しくいあひん年としてい
かひむ舞うてい

あつしくしてちあひ
ちくつれい

もあひやせいさるいみまといのひや
はれらるの不審すけは若りよ
ちくあつしく



こりてけい
秘 ちくねい

中みらるる
秘 ちうはく

う月のひくちあひ
秘 一女のひくち物しわりの
くちのひくち物しわりの
ちうのひくち

しんまをいゆり

かろしんまをいゆり

むろしんまのうらなひをいゆり
とらそのおひら

あふれうらひ

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

このまをいゆり

むろしんま

うらなひをいゆり

初夜し 井日

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

あふれうらひのうらなひをいゆり

秘

よきこととらるるの佛は世に
 一室の東向に其の右にあり
 つらゆりあるべきこと又長
 寺高老の身持る令人高し
 うらぬといふ高老の身持る
 十一年南の

むろりハハ始て一なり始て
 一きく一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり

高老の身持る一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり

秘
 高老の身持る一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり
 一なり一なり一なり一なり

あゝあゝのこゝろにみえぬにささるる心
くあやういふかたれせ

^秘 ちのちのち

こゝいぬ乃大あう

ちをう源のちのち

物うりいへばあういふ

ちをう源

かゝりけう

いふまゝさして物流もあう

丁

ちをいふり

あうのちのちのち

ひ

あゝのちのち

ちをいふ源のち

ちをいふ源のち

ちをいふ源のち

このちのちのち

秘 大和守

大和守 高國の津領事とけり

大ひささめはとて事りり

秘 大悲者 観音

何 大悲者 観音

玉智方まのまふり分り

類聚國史 七部云 五種 室宮 徳藏

千千れゆり人 世と 心 徳藏

後十十澤師 大徳とて事りり

大徳とて人の移りひてて

又 大徳 徳藏 徳藏

大武の少方ありては

けに大武 徳藏とて大武とて

三 年 大武 徳藏とて

たしとてしる事り

高國 司少方とて大和國

三 年 大武 徳藏とて

河 白氏文集 日本記

其の御書の内容は如何なるものか
御書の内容は如何なるものか

ひらきかきかき

ゆゑに信じておられるか
ゆゑに信じておられるか

ひらきかきかき

右と申すは如何なる事か
右と申すは如何なる事か

おぼつかぬ事柄の書か
おぼつかぬ事柄の書か

うしろめたい事柄か
うしろめたい事柄か

いふに及ばぬ事柄か
いふに及ばぬ事柄か

秘
右と申す

右と申すは如何なる事か
右と申すは如何なる事か

すし

中將の御書の内容は如何なるものか
中將の御書の内容は如何なるものか

秘
今れ何事か

中將の御書の内容は如何なるものか
中將の御書の内容は如何なるものか

三宅の御書の内容は如何なるものか
三宅の御書の内容は如何なるものか

この書の内容は如何なるものか
この書の内容は如何なるものか

右と申すは如何なる事か
右と申すは如何なる事か

大武のみさらのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

るちり

大武のこころのくはと水のこころに世

河

寺別當 見万葉 本願天智天皇以去大

化年中臨幸於外都遊獵於此砌之時

伴侍臣曰此處者四神相應之冥宮也

一室興六隆之勝地也乃至登極以後為皇

件傳預白鳳十年初勅下筑前國建三

菩提院乃至天平神護二年軌模東大寺

之形壇遷築於當伽藍之迹砌

都府樓絶者瓦色觀音寺只聽鐘聲

八幡小對して松浦宮崎といひ長

龍

龍

龍

吾年ふ村一して水の水寺の釈世なる
年しつはお徳の徳さぬらうまらん
あゝさかじ

万

ころさくそて何ううう山まれ年ころり

并

はめころり之付あゝゝめも成

は誓う釈世なる寺作りし時の釈し

釈音寺執事國釈世なる寺ん万葉一物

清水れ成寺も釈世なるら回一は清水

は左何の巻し

あれせはせして

むつびはたせううううんたをまお

えあうう幸れのみひえううい

けう一人に三日いゝし

秘

せうううし

うははわてまのううま

たをい三日あう一人のなきううう

つう一人と公たのうまうううう

うううう

此ありてなり

可 淨灯文

秘 釈文なる

ゆのまひ

李部王記延長八年八月作願文違祈
長谷寺觀音願清病平愈將造白檀觀
音像乃奉鏡一面灯明十萬灯
今藥又此門延長ノ帝ノ清信ノ所奉也

此れ人ハく

秘 倒文あれハ

松ノ

又

く

此れあり

秘 玉

何

坂原瑞穂表 せうくは内房のみ

れ童名し

その人このはあんみさこまわりせうり

秘 昇

ひまふしけしうしせうあうしはじ

うさしけしうしはあおむし

秘

けしうし人のさし

せうしうしうしうしうしうし

あいの初の時たしうし 冥途ありと云し

あはれうしうしあはれうし

秘

はらうしあはあす

昇

つらうしれあはあす山堂のつらうし

うしあはあすあはあすうしうしうし

うし

ひあまのいしうしやはれうし

せうしうしうし

おはれうしうしうしうしうし

秘

ちとらうしうし

友のうへにゆくこと

^秘 軍上へ 旨

又おひいてよりおま

^秘 明石おまへ 旨

うへにゆくこと

^秘 玉うへをとり

たしづの若

源氏まへ

又みよとの所

^秘 相直へ

南代の清くくこと

^秘 為や女流

このひあま

何れにゆくこと

うへにゆくこと

ふしこと

源氏まへへゆくこと

うへにゆくこと

まゝしつとせしむるに

みづきまらりあふよゆめ

ちとのみそそまひいひるる

かのいさこのえいこ

も 友つきの中まとのちとるる

らぬ事ふまはるるしゆり

妹君のさよのちまおりに

ついで

も 明石妹君八代

め名妹君のすくれ

たうおりにまんとら

うくれぬく地

元 葉上のま 新 久親のどの

葉上の若別まらり

あふふれりあふ

てい何ういふ

源のなも葉のすくれ

葉に射してまらり

のきくは中へは何が入りて
これよりびりふり

秘

源氏集上 たりけれ
其之集上の事よのほて源氏我れを
よるたれ

いはあきり

秘

あきり
あきり
あきり

いふ今あきり

あきり
あきり

いふいふ

秘

河海花多共

何

上篇
いふ

いふ

秘

楞嚴經云世尊真於百寶無畏光明

今事件の支的ハ眉からりとも又足は
もふあからゆハ全月をふふれ
えハたふりし中ハ家上ハい
もふれらるえあふ人のたふれ
も家上ハあふりあふりあふり
れとすれらりしハいハ
人のこらふハ家上ハあふり
えととらりハあふりあふり
とのいふ

おいふれ

^秘おいふれ

うふあわらあふりあふり

^秘強

おいおこのたふりあふり

とすてあの中ハあふりあふり

家

^ら家

^{何にほてあふり}あふりあふりあふり

民のかたはなむらりて

おし女のたのむしむらりて

おくぬし男子おみれ

し

かつりてちめぬれ

モウコ
詣来し

おはちなるし

くまれぬし

おのやう

あつたし

おとすし

よつたし

ひらきし

し

ちかぬし

つきたし

秘

おくし

うらぶし

てをいふはなほいふはなほいふはなほ

松平とてよあひみはなほいふはなほ

ら〜と〜

ら〜と〜

^{ほろろ}ら〜と〜

ら〜と〜

ね〜と〜

^{いふ}ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

ら〜と〜

秘

まろくの色蒼くそのみの事いふ
新し今白あひの事いふこと
秘あましら

辛

ぬる事いふりおるぬいふは
のま

白

あまみと秘いふつらあみい川
身さくあまいふはたのま

しら

右

か中ひあら

花

あらくくくくおひあまあ
しら

秘

かしらまららららわたり
あま

木

秘

あまあまららららら
しら

夕白くしりハ後さういふありてれば
お清くは業上を身一ふかちてうま
て次おむろくともあつてうま
はくしとてまて

^秘 何れも業上人のうくぬきしりは
とてまらうとてま

ふれとくハさしびめは紙

^秘 ぶつはのがハ紙の中ひき
^花 かのひきふとハさしひき紙とてま

こたれとてま

^弁 の中ひき紙ハ紙の中ひき
くろれとみさういふのうま

紙も入業ハ紙の中ひき
紙

紙も入業ハ紙の中ひき

紙も入業ハ紙の中ひき
紙も入業ハ紙の中ひき
紙も入業ハ紙の中ひき
紙も入業ハ紙の中ひき

私情の百首の中 廿五首 掃と後編

此情の製本

吹の初り若風をてるのさよ

はくしののひよをせれしれお

人あみしなるとも

又あしよとくしとくしとくしとくし

いさうしとくしとくしとくしとくし

こゝてたのりしとくしとくしとくし

くくくくくくくく

秘 内ちんれおし

くくくくくくくく

秘 玉うしれまの我を早下し下

草しはのまつり

ほろろろろろろろろ

意よんまき草みれとくしとくし

大和歌 かなよまの毒れ下草あひれせり

くくくくくくくく

私方な川初早下しとくしとくし

いづれそとていふもむすむすはなむすむす

^秘 出

手よりいづれそとていふもむすむす

くそくそくそくそ

とひひひひひひひ

昔也くそくそくそくそ

種とていひひひひひ

^秘 六条とていひひひひひ

^秘 玉子とていひひひひひ

流石とていひひひひひ

とりあてとていひひひひひ

ふんていひひひひひ

この事とていひひひひひ

^秘 伯瀬とていひひひひひ

むらむらとていひひひひひ

^秘 井とていひひひひひ

けまはとていひひひひひ

みうとていひひひひひ

して

引入ルの車と

秘 二条院ハ狭ウガウリ一自ラウノ景

六条院ハレひラクスいハつクとシカ

辛 二条院ノ目ラウリとシカ

おリひラクスウリ

秘 五ノ條ノ景ノ目ラウリとシカ

とリとシカトシカとシカ

秘 業ノ目ラウリとシカ

おリひラクスウリ

とリとシカトシカとシカ

おリひラクスウリ

秘 景上ノ景ノ目ラウリとシカ

別ノ目ラウリとシカ

とリとシカトシカとシカ

二ノ條ノ景ノ目ラウリとシカ

何 景ノ目ラウリとシカ

何 景ノ目ラウリとシカ

秘 源のみあ—ま—りれと—せま—り
辛 是—と—ま—り—

何 わ—ん—く—と—て—り—

も—ら—は—の—の—
辛 辛—

も—ら—の—の—
辛 辛—

辛 辛—の—の—

秘 辛—の—の—

秘 源—の—の—

辛 右—の—の—

何 何—の—の—

秘 何—の—の—

いんげん豆

業上りの河原中より豆は有らう

しよのいんげん豆

あつちのいんげん豆

松よりいんげん豆

さつちのいんげん豆

原の河原のいんげん豆

ちよのいんげん豆

あつちのいんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

いんげん豆

かろころのいてまをわきまを
秘 源の河こころをわきまを

たうとまきすりきる

おまをたさうらみか
しんじんい
うふたうまき

あれみか

秘 ちとく河

字みありれなま

秘 源の河

うらうらいけらあ

源のむらうらいつまおんせうま
うま

あやうらうら

ちとく河

うらうら

秘 源の河こころをわきまを
まうらうらうら

うあれうう

秘 葉上乃詞

うららあ

秘 源の詞

うれう

たをう向れう

あしゆりう

ゆ

おうれ

秘 源乃詞

このま

弁 葉上乃詞

秘 葉上乃詞

源自稱

秘 葉上乃詞

似

け美北

いうて

秘
右より詞

あをういりてうは葉上かきしよはあか
こ早下ーしてい

きごりうかまー

秘
こてあやめりてい

きごりうかまーは葉上かきしよはあか
あやめりてい
とらとれきすうはの

とれめー

は乃實子れわー

とらとれきすうはの

うー

秘
は乃

めー

葉のゆえはよては

あんとしめー

は乃

らめー

おろつた實又内大臣の男をさら
あまゝいあれはそれの中を教あつてま
ならまゝいおろして心をもつて
とおあすし

これハおろしつゝくゝ

源ハ清子のすゝめれと

あゝくゝおろれ

^秘ちをわつて

くゝおろし

右をわつて源の心をもつて

まゝれつゝくゝのあゝ

内大臣のうたゝくゝおろし

あゝてハおろしつゝくゝ

源氏源氏たゝくゝ

いゝつゝおろし

^秘こをわつて

夕景の心あゝくゝおろし

くゝおろしつゝくゝ

つみくろせ

^鼻タビに波にまよへてあはれおぼれぬ
とよ

いづれもかこらあはれ

^秘源ノ洞

夕ふののよとよら春よりのあはれ
りよりのほしあはれあはれあはれ
ほくみまを

あはれあはれあはれあはれ

夕ふれよ

こつてつるほらら

^秘人のあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

^秘わらわらあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

^秘あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

さす物一筋り

玉うろくしむくひより筋りからぬく
一筋り

流せし花こ

秘

六角花小ひくうんとてしげれま
摘れ申すうり筋りはし

かろ末つむせれ

是うりもしうりおうりうりなわらり
とらまそ草子地

六角花をのふれくしはわら

ひらりとむくしてはさしはら

は又のふもてさうりみま

ものうらやうまはらうり

ままはれおやめりてうらうり

くまこゆを

ま

和奇つてけきはつ

まうすしもころひてまうしみーはら

おろみりりのすらハキしーは

秘 葉子くしんらんせむしあらるるを
くしんらんせむし

はくしげの

秘 大に葉子くしあつりや衣服とよむ
とけういしんらんせむし

何 子子くしんらんせむしあらるるを
くしんらんせむし

くしんらんせむし

くしんらんせむし

秘 玉子くしんらんせむし

何 けいしんらんせむし

けいしんらんせむし

くしんらんせむし

おしんらんせむし

色いむらうの葉子くしんらんせむし

おしんらんせむし

原の葉子くしんらんせむし

ひんらんせむし

おしんらんせむし

ふらふら何事も出づるにせむらうのふらふら
はすのふらふらにせむらうのふらふら
はすのふらふらにせむらうのふらふら

源のふらふらにせむらうのふらふら
と安堵しむらう

ふらふらにせむらうのふらふら
むらうのふらふらにせむらうのふらふら

^秘 策上のふらふら

けせしむらうのふらふら

^秘 けせしむらうのふらふら

^所 顕證 人見證はむらうのふらふら

^ま いらむらうのふらふらにせむらうのふらふら

中宮乃おらうのふらふら

^を 六名乃ふらふらにせむらうのふらふら

ふらふらにせむらうのふらふら

さうら人のつらむらう

中宮乃ふらふらにせむらうのふらふら

湯みぢはるひのつゝまのせよ
申すははるひのつゝまのせよ
すまじのれをれをれをれを
ふどりもしてはかた

ほさき
礼記曰婦人髪垂房中
住日房中則西房也天子諸侯有左

右侍者也
臺の女必あははるひのつゝまの
あまのひよまを仙虎より執政に
ふまてまをまをまをまを
私じのれをれをれをれを

教里れははるひのつゝまの

うらうらうれ可いも教里のねは
うれあは對の文殿まであは
はしてまをうらうれまははるひの
うらうらうらうらうらうら

あひすみもまのひやうま

秘
あひすみもまのひやうま
くもしいぬらうらうらうら
夕白とりうらうらうらうら

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

秘
源り関

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


松は雁ののきもあつとらむ
てらるく一由の人のまてり
一は女のなま貪りては
わうとまひちる事ありは
いほ色とたてさうし
すふ女の教とてつるし
れりれくといふ

あれとせいふ

あまのなかま

うー

松たぬこは
うーのう

あま

たぬ

の

明石の

あま

明石とれ

上の河をみへり源氏をよとの流
くしのゆらひしあまのあめのついで
此乾くけきうろく

しら〜〜〜

夕鳥の神とのあまのついで
のやうにいさ〜〜のあまのついで
あそ〜〜〜

大や〜〜〜
あそ〜〜〜

さ〜〜〜

秘

軍方の河は軍よと明石よと
〜〜〜

秘

さ〜〜源氏若れ夕鳥よと
のすう人のあまはあまのついで
よの流よとあまのついで
明石よとあまのついで
よとあまのついで
れ〜〜のあまのついで

はまのなを指さしてうしろをのぞく

又おしとりのせうとせうとせうと

^秘け姫若れ母とされは源の十とて

ひまよひとりのとせうひまよひ

すうくもいそは

^秘早陣よはありとせう

すうくもいそは

らハトせうとせうのせうとせう

ふんせうとせうとせうとせう

すうくもいそは

あそびとせうとせう

^秘俄よとせうとせうとせう

いらせれとせうの物

^秘只ト女成とせう 我市女商人

^秘市女商人とせうの同せうとせう

とせうとせうとせうとせう

とせうとせうとせうとせう

今世今の世とせうとせうとせう

うはあさくましああこさあこりな
ぬ程よとのつうしや外て申立すた
ふひあぬくゆらこ

わでのほくのほ
めてのほまぶしのほ 出来はよそり新

その人れこまとい
むらげりれ様姓といあつはさゆ

十月カミナツキ 十月カミナツキ

一本のほ 十一月シモツキ

十月のほ 十一月シモツキ

おしんくははらこい

花らり里ううの町の東の村

すうこまのほ 七のほ 七のほ

おしハ原のまはりまはらり

あつげり

あつれとまひり人

^秘源の句

おらうらししきて

おまよまししるしるしるしるし

ええままいいててああし

女メなナりリまマて

年トシくクひヒきキまマしシ今イマ年トシおオうウるル女メ二ニ歳

九ク日ニチまマ入イ礼レイ記キ内ナイ則ソク篇ペン女メ子シ十ジュウ年ネン不フ出シュツ也

十ジュウ有ユウ五ゴ年ネン而ニ并ヘイ

礼レイ記キ小コ女メ嫁カ一イチ名ナリリ婦フトト云ク也

おオらラれレ小コ女メ嫁カ一イチ名ナリリ婦フトト云ク也

年トシ老ロウるル也

おオらラるル也

くクらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとト

おオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとト 媪オウ

おオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとト 秘

おオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとト 秘

たタりリ

おオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとトおオらラいイとト

とてらあうりー約るし

私書野のぬらうりならんよつひせり

とて入まつひらうあまふんていふ

あうりーこあひげらうてし

中ぬ成さあしはけそらうよ

夕穿成むらうの軍あじしうこまつく

のあーすし

夕穿中ぬのうーうまみさうり

夕穿あうまてさうりめて中ぬあまら

夕穿あまあひめさうりあうりあ

あまあうり

たのーさうりーうし

あうりーあまあひめさうりあうりあ

あま

あまあうりあ

秘 範教里ノ詞

ひあまれひさあ

明石あまあ一人あうりーあ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

かのあやなほし人こほし

源の国又あよとく

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あいらつたのほよ

あつらひし中へお掛かるといふ
こと

みづらひのなごころひより

^舟 玉の舟のゆりしもの源氏をた

ちよ

おれはししとくそ

むろく女房ものの中へ

わらひゆりしもの舟

源氏のおりして入るる

右とういふふてい

^秘 書しふしめし ^舟 舟

^舟 撞ぬし けりしとあり

この舟ららぬしとあり

^舟 ららぬしとありしとあり

^秘 源の舟敷めしものあり

大ししとけしとあり

大のおりしとありしとあり

ししとありしとあり

ちみよしほしむいあまをくすくす
ららあまのちをくすくす
とあまのちを

ららあまのちをくすくす
源乃ら美のちをくすくす
いそ

こはほゆちんげー解して
秘
源乃のち

ららあまのちを

くすくす

ららあまのちを

くすくす

ららあまのちを

くすくす

くすくす

ららあまのちを

くすくす

ららあまのちを

何羽個

かたいろははひまあふれとさうし
三年まうりわあ〜として
蛭子れ又母よ丁てらり事とむ
の我も〜う〜ま〜て〜ん〜ん
も
まう〜れまう〜の〜母よとれて
まじ〜る〜事と蛭子よふ〜ん〜ん
て〜ん〜ん〜

ま
とせま成のの彼の河よそのおつり

お
三々々の時わ中まうり〜ん〜ん
合〜とさ茶〜とせまぬのれ智の河
よそののま〜ん

む〜人ま〜〜あれて

まう〜れおつり〜ん〜ん

れまみて

源のま〜ん

まのま〜あ〜つ〜ま〜ん〜ん
う〜ん〜ん

秘
源の角

私あふれも今ふとわらふと
年よあつたわやれ同とむせの
はさうのそりのゆめさうさうさ
あつたてあつたてさうさあ
夕鳥よこおこせのこぞあつた
あつたてあつたて源のそりの
あつたのまをさうさあつた
はまのあつた

あつたてあつたてあつた

秘
あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

あつたてあつたてあつた

秘
あつたてあつたてあつた

れうらあぬ人の

物もののたふしあふまをたふ

しうらあぬ人のたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

うらあぬ人のたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

あつらひのたふしあふまをたふ

いふもくしんふにわが我のちかみしる
後悔はふし

今れあふしうしうしひしりぬ
又のしうしうしうしうしうし
わらうしうしうしうしうし

おとてあつて

はあしうし

現ひふし

秘原

あひしうしうしうしうしうし

いれあふし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

あふしうしうしうしうし

源れむうつたふいと夕方ののぼり
人々うなすすまむ

^秘夕方のむらほのま(うら)つてのぼり
まのまーうなす

いあそくあーまほいあそくあそく
いあそくあそく

^秘夕方のゆめはゆめあつたあそく
あそくあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく

あそくあそくあそくあそくあそく
^秘夕方のあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく

^秘あそくあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく
あそくあそくあそくあそくあそく

おやううし

^秘源夕芳ま

いそそ三條

^秘おみ大和乃小方ま

やまも若もし

きしつ

^秘丈夫監

^秘いそそ

ま

^昇いそそ

^秘いそそ

いそそ

いそそ

いそそ

いそそ

いそそ

いそそ

あるさうある事とせう

まう〜れ方別〜て家目よの
定まる

そね介もあうぬ

^秘そね介も家目よあうぬ

そね介の西村娘も家目よあうぬ

のちび〜つみり〜ら

そね介の

いそかりめもきいてみる

け介れといかりそめとい後中〜

出入〜れと今家目よあうぬ

す〜入〜てあうぬとさ〜あうぬ

人とい〜事とあうぬ

そね介孝心のりて徳とたか

忠貞〜てまう〜と事す〜

ま〜て西目と事〜けらぬ

あ〜れまの忠信お〜ての〜あうぬ

〜お〜事

いかにゆゑに陣敷をくはらふなり
しつらき事おはりしるるゆゑにやめ
おあしよせさる事おはるふみれりては
ちかどれおしよて酒かきしるるお
しよねおのり

うぶすらうしよしよしよ
ちかどれおしよしよしよしよしよ
しよしよしよしよしよしよ

せめりれしよあひ

^秘 葉上るうのみたしひこまら

らうのしよしよしよしよ

^何 装束うりおしよしよしよしよ
てありの男女装束うらりのしよしよ
ひさひさのしよしよしよしよ

板川み今ハ十石物と書いしよしよ
しよしよのしよしよしよしよ

^秘 ありきみらしよしよ

うぐわんてむひし

は東上り

は東上りつりむら

は東上りつりむら

さへむらじ人の

くこの頃さちむらじ人の
くの時

さむらじむら

うの人のむらじむら

は東上りつりむら

さへむらじむら
むらじむら

さへむらじむら

は東上りつりむら

は東上りつりむら

は東上りつりむら

は東上りつりむら

は東上りつりむら

松
秘のまじり
一書

花のくく見よてハ

秘

我身も積ふしよしてのうらむりもて
ハ知つてハ幸とされども源よらうひ
多くとくも多し美いさう美あつた
事
同くれもさうもてりしは統あめあ
ふえ倍一物に事と乃てよ人のくこら
乃られあまきと積よてさうやうな
てうとさうさうくさうのく積よて
みのくさふ心 作流

花
貞觀政要唐太宗嘗謂侍臣曰以銅為

鏡可以正衣冠以古為鏡可以知知興
替以人為鏡可以明得失朕常保此三
鏡以防已過今魏徵徂逝遂亡一鏡矣
今輩人さうして積よすりハ魏徵さうり
おこれと又正衣冠しよ衣衣表の
めも世のさうり何ふや人のさうの
うし何さうも積よてみりやうはい
さうさうさうさうさうさうのさ

源氏乃^亮は京上の御事と云ふなりて
あこびたりやうに御事ハ京上ハちひ
ぬとてあつたなり

いこのころはれまきくかへて
^亮是よりハ源氏君の侍御の御事
ハ無上なることなりと云ふなり
こゝにハかきりたうと云ふは
又あまきかきりたりと云ふは
何と云ふなりと云ふは

うこひたりと云ふは
河海乃流いと云ふは
^亮源氏は京上の人の御事と云ふは
まじりたりと云ふは

物乃色ハかきりあり
^秘まろくハのハ結構と云ふは
上乃こひたりと云ふは
そこれらも又れと云ふは
^秘せと云ふは

あまのいぢりあまのいぢり
ういひあまのいぢりあまのいぢり
字のいぢりあまのいぢり
名

私人のいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり
あまのいぢりあまのいぢり

今去のいぢりあまのいぢり

ういひあまのいぢりあまのいぢり
けいけいけいけいけいけいけい

柳のいぢりあまのいぢり
柳のいぢりあまのいぢり

いぢり

ういひあまのいぢりあまのいぢり
人志れすあまのいぢり
おまのいぢり

いしゆんせいのとみけはてはれりり
あうららたりのあえゆきさあうて

昇

あまの

源氏の清料也

松

あまのすむじよあひのり

花

あまのすむじよあひのり

花

あまのすむじよあひのり

花

あまのすむじよあひのり

花

あまのすむじよあひのり

花

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

あまのすむじよあひのり

ていなりし海より北に割取高し
始し

私花多し義も月し

お行しりまゝいふ

おれえりり西よりし

幸ふにけつしりみしの道

何 似やれし

いふ上乃似し

つりく

いふくははるし

いふし知れりし

いふれまゝいふるし

いふの縁をたふし

あふし事ハたふし

未摘れ右神あり

いぬまのらまの神をら

秘 使の縁

神をられし

えうまののまゐるもあはれとらふなかり
こころり

いそやたぬふに中しくあて

^秘久の詞

^花柳のまゐのまもあはれとらふま

私花鳥のまゐりし原のまもくま

おん千つらまゐすまふげはまあはれ

てらるまゐり

未稿てくれいみられまりのあ

久ーやうそん神代わーて

^九いせあてまーいおいしくむり

ふれまをぬーてらあ

私原のまひまゐるまゐてい

あはれくーやうそんまゐりま

いそまはくまゐりし原のまゐてあ

あーてらまゐり

あてのまゐりまゐりまゐり

あまらりまゐりまゐりまゐり

あまこころよび又奥のこころとを振
たりし 舟日河海

も
枕着のよよあかりてこころよび
ひてよみしころしる人車あり奥
ノ字にあまひきまのこころよび
あまこころよびのこころよび
と云末つむのこころよび
奥字の上なるあまのこころよび
いさこころよび

源のまつびれまよひ
うへまよひ

いさこ

あまこころよび

源のまよひ

あまこころよび

秘

け保あまのこころよび
あまのこころよび
いさこ

うやうやうとつらなうぬらめううぬらめううぬらめ
うやうやうとつらなうぬらめううぬらめううぬらめ
うやうやうとつらなうぬらめううぬらめううぬらめ

^昇まつむの路のうぬらめううぬらめ
うやうやうとつらなうぬらめううぬらめ

松げ根なるものまじりぬらめ
こけまううぬらめううぬらめ
ありはらのうぬらめううぬらめ
舟とこけ

^昇うらうらうきまみ ^秘源のまみ

うらうらうきまみ ^秘源のまみ
橋と岸して源氏のれうらめ

^は右代方清 ^秘又右代方

かうやうとつらなうぬらめううぬらめ
ま橋の奇ううぬらめううぬらめ
枝はううぬらめううぬらめ
げまううぬらめううぬらめ

みよこ

秘

未摘いりし香をいよ歌をきりてみ

るをこころめてつめてはまのこころ

いそ

まらりそれつりり

秘

源乃もれもけ歌りし

いよあそびのそらもてはるる

うれはれあれ

并

ゆふにそらもてはるる

のこころ

君の清き

秘

雲上り

かのうらみ

秘

正夜の別のこと

きこえといひ

后とわたりて嫉妬のこころ

人のあはれ

あやのまよひ

源の子れをうめりて紫とらたて

まこと

えれいといふうきくねりたり

嫉妬乃うこよは物とおもひせぬく其縁の

自称し

秘

さやうのかいとし

この美れかく

秘

女三交し 昇

沸るりうのうまれハ

秘

自若ハ志しさ事とし 昇

原ハ所方なき一はくこも事とも世ハ所カ

のうの事られハな成りりうおねん

あまとも物のかさうくは家ノのま

ト上世ハこもりうのしおりしきんとし

のまやうよ

秘

業上の詞 昇

おろりれとい方よはこよふ心

業乃早下の初くおりハる方れ世あり

ふいとし

かういふあぬきさうし

女三乃ゆきさうし成心よこりてのまれ

さだましつもの

秘

されしとし 昇

いびりなりなりとて

前より後の地帯より幸のおがまいたる會
しきまてとるまうへふ家いしのみまう此
こてとるまうとぬおるまうとるまう
ふあいのわらものおるまう

のこりおがまきまが

十番といひのこりおるまう

まあやふらち

おれまていびりおるまうとるまう

命といひあゝのま^ま実^まはら^ま十^ま番^ま

命といひのこりおるまう

まあやふらち

今年おま重たるまう

まあやふらち

まあやふらち

秘 原の詞事

れとるまうとるまうのま

おまよりの別とるまう

世にひらきありては人とし

いとおもひまうしとては後へもして

^秘申すもよほのちしるす

まうつゝあひ

是も世に古の道徳もあはれはり

みあるとし

申文もくさる人としは矣

^秘秋は申文の終泉流との世にあり

ころきもくさるあはれもあはれ

善治もりては師のまじりては事なり

かつ世ありとも

^秘後世もてしるす

いれとせれぬん

^秘ね世もりては事なり

ともひりては事なり

^秘うらなれ事なり

きしる人の清ら

養上清は所居を人のまじりては

人といふ

私に物緒よりかきりて又世をまわりの
けりあつた世のよき世のよき
みえり

うらの情の情の情の情

^再 田乃ゆゑの石女御事

^秘 石女御事しりし事今も
あつたがよき世のよき世のよき
あつた

^再 石女御事しりし事

私に物緒よりかきりて

あつたがよき世のよき世のよき

^秘 石女御事しりし事

あつたがよき世のよき世のよき

あつたがよき世のよき世のよき

^秘 石女御事しりし事

あつたがよき世のよき世のよき

あつたがよき世のよき世のよき

さつりめいし

秘 源のむく 井 源の浩

秘 源のむく

心とさつりめいし

は草のめいしと心とさつりめいし
女流のめいしと心とさつりめいし
しつりめいしと心とさつりめいし
かつりめいしと心とさつりめいし
君と心とさつりめいし

秘 君ハ草上ニむらびくの源ハ秘

源の河をまきしと心とさつりめいし
かつりめいしと心とさつりめいし
人の事し 秘

いしつりめいしと心とさつりめいし

秘 物えんしと心とさつりめいし 井

あつりめいしと心とさつりめいし

秘 女ハあよびしと心とさつりめいし
あつりめいしと心とさつりめいし

とまよふ公とくわん

秘 女に愛の清い心

并 女に愛の清い心

いほのいほよほ

秘 原の綱

物乃一に公をいし

原に我とのあは

日一りのきりあつて

日まの所秘者たれきりよらひにほ

たいさかまのめたり

秘 景上

かくせらるるひよ

并 景上への心

昔よりいもくもあはる家男に

并 大いそ家おこりなとくあり

ほあーいほあー

いほあーいほあー

いほあーいほあー

いほあーいほあー

いほあーいほあー

いほあーいほあー

このきぬぬゆゑにふらふらと

けしきもいととお通はるる

圓つるゝゝらせらありては地とや

あやしくもいととと 葉乃方上れ事

幸いの活ひはぬれしよ

^秘 葉乃方上れ事とてふれんはぬれし

人のまほひとて

^秘 女乃方ハ候姫乃一乃地さひるれん

御はね成るるは

連し胸中よとら心のいとありぬら

清せうとてこまゝとてせん

源れ女この方うおはしる人けきよとて

ひんあゝいと

葉乃方上れ事とて奇物もあへ

ゆゑもぬらみ

^何 人まぬらう思ふ人よあゝあ

ぬらみとてかゆぬれ

尻もさみ

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

女流ノ流ニミトミクカ合リノ事 秘 源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事 秘

女流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

源ハ其ノ流ニミトミクカ合リノ事

紫上れ世とておろしん事とていへるが
乃原のむし

ひししししししししし 秘 乃原のむし

きよいしぬのみこけい

前うかきりありてわきりてあり

うかきりてあり

まみゆいあま

秘 女之まみゆり方なり

ゆいしししししししし

わの院の四あしけし女之あまゆい
いまりあし

院乃ららのんて 秘 六重院

この院よりハ 秘 六重院

人いしりれゆけいひし

秘 世草上二人とて

くくあまたりしきまて 秘 斎乃事

秘 乃懐妊なり

くゆいしゆりかちあま

紫上病中よきそのいもみおとらり
りい懐妊乃ちあつたれも肉喜り
流しと女流アアもまを公けひ妙
りり宮乃いとうけりて

^并 則石中交腹乃ニ交れ又白く交れ ^并 秘

^秘 アリ女一文の事あり ^{永正九十五夏}

^秘 女一宮 杖為女一文くゆら住居思意符合
松西抄女一宮くゆ一交二月小思意符合

直達院ノ事

おしあひ流りと ^秘 紫の綱

ゆーくかられ

^并 源氏浩固 ^秘 くのい

^秘 松げ一腹皆源氏乃河とんり

幸とるもの一流り

^并 けいどうめいけいみ字とみく心

^秘 大事ハもまうまき

とてひろくうハ物ハ

^秘 紫上乃徳あるんをて成いひわ

こいふなり

小取乎小得福大取乎大得福 孝經至德

要道篇 帝範曰逐牛之鼎不可處以

烹雞捕鼠之揮不可使之搏歟一鈞

之器不能容以注溪之流百石之車

不可滿以斗筲之粟何大冰小量輕

執重之宜

三三のなの人を久しくつねなり

老子経曰 柔之勝剛 古柔 剛耐 天下

莫不知 知柔弱者久長 對強者折佛也

くあるやせめても 何 柔者

御心のいとゆるまけし

ゆるれゆるまけし

まのこやまのつらハ中納公小物よまのこ

秘 けと下指す乃事といふなりけりハ柔水

めくまのつらハ為こり

いと町の人なり

秘 町くあ人なり事

おし事のれりぬ

秘 女之乃之れは事なり

け文乃れおねのニ文と 井 女之れおね文藤葉

秘 柏平れ室藤葉あしひん 秘 藤葉意

下^ゲらりの文衣

秘 更衣

ととらりてみめし 女三の侍事し

なくさめくれとてして 姨^不井^不

何 ころんさくさめか孫りしりあむ

とてしりては月

たるとしては女三の文れおね文京高れ

めめはれおねあしひん何とあしひんせ

いぬりんさくさめかこしひん

井 月とらりてなくさめくれ文と

ととらりてあしひんあしひん

さく肝要

秘 花巻りしち文乃れ侍嬢うが子てい

け美よなへくれさくさめか

乃あそ大和物語の流りか

まゝに記すより 女はにまらふは約法に

ついでに記す

多々ぬ公のやし

柏木乃らりよぬ公

院のうらよ 元 院ハ朱雀とす

秘 朱雀院ハ女之文の事と人の事と源ハ

くは階ありゆらりとされらるや

まゝにせハ後悔ハ流す

朱雀院ハ女之文の事と人の事と源ハ

此公とふらよハ後悔ハ流す

人らまゝとゆよらめ事のおぬ公

くハ公を記すと朱雀院お前也

き家と

梅お前 可 梅

氏と

昇 右妻の事なり

いりおひん

因 かりりりおひん

幸へお祈り申されしに

^秘ひりしるまみへん事へん(Shinshin)

そま成るれしとて

おあし西見方とておとし(Shinshin)の事
なほとせ

所へん見ゆてまうり

旅葉文となまこし又女とまう(公)が法
らん事とせ

まこしおありまれ

^因まこしとまうありまれといま

まうかこしひあ

女之乃西りしるりまみ(事)小(事)産も

今上とまうり(事)産も

院小内あも

^秘院を(事)産へ

なすうへん(事)

まこしとまう(事)産も

まこしとまう(事)産も

花
物事のいはいさうゆんまのりゆしゆん
女之文とゆゆしとゆゆしとゆゆし
——くおまゆし

弁
しとさう——牛産のゆ備あはとんむ
物事——ゆとゆとゆとゆとゆとゆと

秘
ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし
花多況いゆ牛産ゆゆしゆゆし

あはれ我ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

又小ゆ後のゆく

ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし
根ゆのる世まゆゆゆゆゆ

かり院れゆゆしゆゆし
ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし

ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし
ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし

ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし
ゆゆしゆゆしゆゆしゆゆし

弁

中納言よりありては事一に位の条あり
三位よりありし事あり

天武天皇十四年七月庚午勅定
明以下進位以上朝服也淨位已上
普著朱花此云
波臣強正位深紫直位後
紫勤位深緑務位後緑追位深蒲
苗進位後蒲苗

文武天皇大寶元年三月甲午始
依新令改制官位号官位服制親

王四品已上諸王諸臣一位者皆黑紫
諸王二位已下諸臣三位已上者皆赤
紫直冠上四位深緋下四位後緋勒
冠四階深緑務冠四階後緑追冠四
階深縹進冠四階後縹皆後冠綺帶
白鞞黑革舄其袴者直冠以上者皆
自縛口袴勒以下者白脛裳

初平比卷二初々番後右邊の袴好し袴内之
みんより上古ハ位より之よりハハ袍多し

浅深わりの麻明日天曆五年二月任權

中納言叙從之位 元多未改正四位下 時允兼右大

臣送袍奇在後撰集

そりまやまのち成ゆささくさく

のりつ成さんとハ

資房記少も叙三位著改袍りみり

いふひあくさやりのる家

秘 小約長手し

いふらうこりうさ

秘 拍子の詞し

いとおき海しきれハ 源よおきうさ

あまこりおかけられ 秘 小約長手

なふしはまのりいんと

并 小約長手まのりしき猪のまゝ金かんし

らうさ 可 撥極りひすらおし

私今の世れ世俗りくくらさるひを成

いふ氣し

いてあれさくさく

秘 拍子の詞

あらく

秘 松とらしくし

女取后もあつちありて

可 五葉二葉后業平朝臣通

事うしん後撰云といて

由是下よゆりり家え長れみ

俺めまの今つておれ

くしてそありんし

秘 二葉后とこれ倒な

弄

業平清和女帝に衣通

まうしてその所ありき

秘 女三

うらくいさるる

秘 上よとされ

院乃あま

秘 院との

あまのひめ

まうとひの

秘 物名上なるもの目録ありてひくうん

世中へいとはおらまゝ

可 多しきハありまゝか 世中世中
いふはまゝいひにちよひ

私けあよとより

しつゝたな家事か 世中世中

秘 心よりほひうん

人よりとれほつるはありて

秘 小物短く向

あてはれかゝるあゝあ

秘 いふうんかな家ゝんまゝうん

あてとあーせし

あまハらのけねれ

秘 あやまほかしくありてのまゝ

あやまのまゝハくほ

かゝみまゝ

女之れ原とのるたひうん

うりひよりうん

秘 物本

皮とくさくさなりなれ 秘 物々角

源の清ありまぬとこし

なましくさくさく

ふき散るもの奇きくはなれまきくされ
とくさくは早トー

あつ門い満そすれゆくまき散るよ
ふひひろ人のなまき散るよ

秘 早トー

そのぬくらぬ

秘

小竹枝こくよりれい自然ありまき散る

ぬくさ

何

解遊仙座

えいさひいへい 小竹枝綱

さりぬれいしあへい

院乃たりまき散る

いさる家ありうへ

秘

小竹枝くちらとゆういし家竹まきのめあ

いさる家ありうへ

いふくといふ

秘 物本

せうれいごうりて

物本のせいのよふいひのいひ

せうれいごうりて

物本へ小約長り

らりあひあり

昇 らりあひくちをてつていひ

らりあひくちをてつていひ 秘 物の公

事ゆきいひくちをてつていひ

女よりあひくちをてつていひ

物のあひくち

知月十余日の事トモいひくちをてつていひ

四月中午日齊内親王禊事 年中行事

秘 齊内親王之禊之事也

昇 母院乃禊禊毎年の儀之中午日也

晴るれいひの白女房をまへていひ

葵申しよ流櫻ハ午日く治すりめて
院よりつりぬる時れ吉日とてぬかり
て定日あり毎年ハ申午日

うぬりハあぬ

辛 抱ぬひかすよりよふあり

秘 ころハトぼくするれはらうもかひなき

らうききぬあせらの若も

辛 女三女よりうきききぬ女房也

源中おせめてひよさせ

秘 按察宗若乃おひん也

金と西丁れひんうおまの御はら

あまかしのままもおひん

たりかりりともあやたし

きぬとあつん事なりやハ

秘 抱浪乃評こよハ抱本れんこ

おまひりり

文ハ何んしかく 女と

おまこのけりも 抱本

院乃おはす御し 原氏とて御し

ゆうれきん

^可 存乃さきとて人鬼氣乃より 見奉れ 性抄

^弄 寝而らしありてあり

あさま〜くせしき〜 女と名申し

〜い〜い〜い

是より女と文の神し

かとあり神し ^秘 柏子綱

あかけあさい心の約し 浅

おねおの事あり〜おひひ〜

〜

ひ〜あらんこめて 申〜一〜

〜ハカ〜い〜

院乃さき〜

柏乃事ハ牛産とてり〜

〜

〜の〜の〜

〜あ〜ぬ〜い〜み〜人〜り〜

物まのちれ原まらみゆへり原まら
ぬれ物まのちらへむあへる
うこうゆり 秘 心と動す

并 繕乃若心と動す
いりりちみゆりよきりあり 可 深著 日花
せいかのて

秘 心と動す
心と動す
心と動す
心と動す
秘 実事かへあへる 并

この人なりりり 女との如く
おとりのなきと 物乃心

たれとれまめと
物まれ女ととれへり 心と動す
ひくぬみなり心と

秘 まはれおとれま 并
よそのおのひなり

秘 物まの心と 心と動す
よりけいあへる 心と動す

おもひにハかり家とし

ひく〜まゝらハあて

可
ひんあれんけぬ〜とかいふはなると
事〜又いひけりいふらんや

私何あゝる是も実事おしり

をさうも〜は母のから

と物のさよ

さう〜さうさひもせ

女これ〜いのかは〜ぬ

わてか〜

可
将隠

秘
伴路物清白とる人といふ時

とらぬは〜

并
葉平二条后と具〜

あ〜

〜

可
睡 遊仙屋 坐睡 因是よ実事

〜

秘
懐妊乃事〜 夢歎ハ懐胎相〜

え
てあつゝ〜描とまよふとぬつんとすま
とん〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ
なりあふり〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ
とあつゝ院のいまよらるゝあつゝいまよらるゝ
とん〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ

なみ〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ
あつゝのいまよらるゝあつゝいまよらるゝ
あ〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ
い〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ

と〜いまよらるゝあつゝいまよらるゝ

私花名のまもり河ま

な成か〜のまもり 秘 物本花名

院〜といまよらるゝあつゝいまよらるゝ

秘 院 秘 女三のいまよらるゝ

人乃い候と〜のまよらるゝ

秘 下宿袋袖と嫁子拭 遊仙屋

秘 おも〜い河

い〜い河 秘 物本の河

あつしよのこゝろにほろりぬ

栞子のあつしよのこゝろにほろりぬ
ほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ

栞子れつし

あつしよのこゝろにほろりぬ

栞子のあつしよのこゝろにほろりぬ
あつしよのこゝろにほろりぬ
あつしよのこゝろにほろりぬ

何 川多なるはあ
あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ
あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ
あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ

あつしよのこゝろにほろりぬ
あつしよのこゝろにほろりぬ

神國の地こそをこころおとせぬやせなり
みえなりきんと同成そんをあらう地
——は新のてりしとて古新よ多し
け末同いぬそんいふたしあはすこり
第14——又まうひあんとてあり
好撰立三同四 は新古あ多し三抄入
^三なれ川うす新え——
^三なり出く——
わさそり金銀かことさぬとせむる花

流ハい流くのとそくのと心成なりて
るる——とて又正徹説け時指は心と
こらとるいうらのうらぬてよと
乃別とるれとて
神なりきんといふとあわしあは
け新あまの約り 後撰立三
な——川うすの心とあつたうぬ
つりの流のるたあは 又新
あつたうぬとあつたうぬ

久又立身人とすふ時指子と女とのあ
くさめてさうく一筆んとさうくのむすれ
こ変し

^{女書}あまの宮にうらむかひさしあふまふりてみてもは
まうり八指のむらうり一と今指子のはて

こまあーあーゆとーかーうみふまな

あー

心ハしあゆまあれれ

ゆーいあはるあまき

^何あうさうー袖れらうるや入るんわらほ

あれあれゆらとほ

^秘藏乃字妙なりあうさうりー袖のらわ

今うきんの心あり

^美まよとん詞字眼しりあひし

女之乃由りしめし

秘 落葉文 美因

大庭(り)志れひて

美子 波仕古居し

落葉れ文のさへハの居りて又おれれと
しりまよな故へ

んはみまれささく

美子福の夏れ事し

そつはけしさい

美子只知りん

心 そつおれろくさく

女乃由りぬあハ

女三まじ

いしあろまろしん

美子か登りのされひん事ハ海な故
事ハのまろしん事ハみれとこれ別て
あつまろしん事ハし

ろしんの居りしとらあやらて

何 妃 日卒花

侍妻 因れ 女侍三まじの類の事し

くかーくおろしん

あまのえん格のまへに

ありいりぞりうらひに

并女清らるる成あやまらして罪よあはれ
うらひあはれ

おれ院よめとれえあれ

秘 清の清事

并 女とれえあれ上湯人をもいなり

かきりあはれあはれ

も 二条の事れ后あはれ乱并 世人成り

秘

世の人とて世あれうらへ

実法まてしんかのみもあれや

これいづとぬり成んもあれや

義因是の事後よりぬ女

うらひあはれ

義父は是の世とて知る人

心かりあはれ

うらひあはれあはれあはれ

してあはれとれ心はちか

まやうの人も心かゝる事とあはれ
あつゝいふよのさうりあはれやいふは
かへんあしあはれ人の事せえさあえ
さうり花をさうり一糸二糸后類と
しつゝ能くや

心いぬれ心もおいせなし

^并女之まにぬるさ心もあしや

是ハ女之の心をもあつゝ一糸二糸
あつゝもとなれよあつゝ一糸二糸

一糸二糸もあつゝ人もあつゝ
あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ
あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ

あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ

女之のまにぬるさ心もあつゝ

あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ

女之のまにぬるさ心もあつゝ

あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ

^秘あつゝあつゝ一糸二糸もあつゝ

そこがし 女之乃とぬく業上れなる家より
らひまてとるあしとほれんまよく

久しきなりぬりこゆと

源の心をは京の煩ゆえ一たせぬゆり
女之乃もやうよいらもむらぬゆり
ほぬしこの心く

かの清心らのさぬあし

秘 業上事 事

久しきゆはととる人と業上れぬ
さぬとゆくまよく

いづけありし秘あり

業と細のより養育ありしゆに
んまれらかぬとく

あれがしとまよく

源れ女こののそめ成しはく

まいかき一れもとるゆめ

女之乃ゆく源の柏木の事成たりゆめ
とおかまよく

かんの若ら

ちまき 秘

申しつらうをら

終の事よきりかたをく

まうりの口

秘 百一の事

あつらひを

おんよりの事いふの事

あつらひを

あつらひを

梅子の体

女まよひの事

秘 二文

秘 落葉交やわらふよりの事

あつらひを

うらみの事

梅子の体

梅 くらげの事

秘 橋の事

橋とて花の事

女に交れし事

らぬ事

人なりあつらひを

祭りの事

なりあつらひを

おのゝなり

たゞりおのゝなり

業の縁より通入るゝのみ

きんか乃院ハ 并ニ多院ハ

いしやうくく 何れ云 万葉

并 曲之まうりま家也

さうらうさうらうのみそゆりてぬ

美やみよれハ不りの律物傳本本は

さうぬハ通上せは南庄の候は

ひげひげおろりくはハ増ハ

すまふ

かろくともさうら

さうらくとさうら出ふ

さうらもたのさうら

あまよてゆの心とたうては

もらおつる

不勤さの清りものらひあり

本抄言

何 大般若経曰 定業亦能轉

正報盡者能延六月住 不動義軌

金剛平光明灌頂經曰 世号不動之印軌

復次觀自身成就尊形伏一百由旬内

取有難調御鬼神取持者皆悉能散

壞

秘

定業亦能轉の心 河海よみあり

善元畏三藏之師欲滅才子為受

灌頂善元畏行此法悉受灌頂 并

之故能延年の事を

善元能延六月住 トウニニ付て能延六月

の法にて秘法あり人よその御のあ

りてとむと一月より一月とて二月よ

かともか之れ成れぬ法実なり

能延六月といふは

その日くると

是ハ能延六月のは成をある日成は

とこみせ七日の事一丸

とありまよつたまも

養父の頃の事よふくはなすか〜と云

うとせ

佛と云ふことまうり

源北越佛の深切うり成佛のありま

まよつた

何〜いふまうり

紫上ノ換ま〜のまよつた

い〜うてう〜せられて

養父の加持よハ金剛傳をてかきま

洞依之東寺云調ト云ト云

てう〜いふまのうあきけあ

相の事成洞〜ていふまのうあき

のい事〜

おろ〜せんと

弁
景上とてふらん

命とてふまゝ

海の命と堪まうか
けさいふ
海にそかくいふ
方成りけぬれ

兼
美字画處めてせう
かりぬれと

弁
は是下乃あはれ
まはくい海く
業

といぬり

いぬりぬりなりとて

今とてめての
枕よひらぬ
くそを
是

いとましく
あられ
こを
源は清事
うた

心より海
ひく
あられ
ぬゆと

多むり
ん
か
の
け
の

秘
葵上れ
時出
一
抱
の
け
の
は
な
り
兼
美
字

あきま
く
む
は
ひ
こ
お
り
ま
あ
り
乃
り
ぬ
も
ゆ
し
た
れ
と

葵乃時
なり
候
く
ま
事
よ
源
の
お
ひ

まひ
に
あ
か
り
ぬ
ま
海
め
か
と

いぬ
く
ま
葵
上
候
なり
なり
ぬ

ゆゑにその人

原はよめまよしといふ家よりくんの孫

三つねがそのおまじいりぐ

可証なき

国もあつていふんぬ

又人のまじりし事なり

原のちかこもいして人のえらぬ事此の

けよこもい

かろくやといふ事

此のけよこもい

六

^{おの}我力とあらぬはなれぬ事いふ事いふ事いふ事

あつぬはなれぬ事いふ事いふ事

^秘物のけよこもい我力とあらぬ事いふ事

^并おれ事のけよこもい我力とあらぬ事いふ事

あつぬはなれぬ事

よめららぬ事いふ事いふ事

此もよめらぬ事いふ事いふ事

よめらぬ事いふ事いふ事

あつぬはなれぬ事

秘 源れ抱いせしごと

申文れ事しめてと 并 秋おん

秘 抱乃げれいん

道おとにありめまこ

并 生前お後り心のかりるまをい

おれらうまてと

并 子れ事とおとあとしは是前乃心

お成る津うけしとおもひまはし

あん 何 執ラ

兼の 子れ事おしお死後まゆひな家おれ

執う後の世備うとくおまわと

いとこの世一人ありおし

兼の 生前う我とおひまておひ

死後の清りむり抱うりのばれと

あまらの清抱こり

秘 前う京上之かりのひま

心ううひあて

は是前乃清心故人をうか

つらひし事し美や権乃事しよ其眞
為云の清事成かり流しけもあわ
まより清やと源の人活ひし之皆眞し
通す事し

なまぬおりの事し 并 なまぬ有かり事し
なまぬ乃泣され何の事し
なまぬしなまぬしから流下しけいさくち
多れぬ成ひつげて物よありん
らさるしつりにかくしきかたけい

なれハカく下せま

并 此是所乃也事しなまぬし

西見ましなれハカくしなまぬし
しと病者の命ありしものありなまぬし
やや 歎者乃加物なまぬし畏れなまぬし
下とあるし根なる成下せれ云なまぬし
あつれなまぬし

私此美とあるし只秘りしなまぬし
年下夜より海やありし病者なるあ

うへにあらはれしは

かゝるに、其の并 靈あるの如く

あらはれしは 并 其の如く

私に養ひて只秘し義に秘れ

されんとすくましく 秘 聖上と

ゆとりは

秘 源ハまもりはくして 目

并 佛にゆとり 源氏の事

私源ハまもりつたれを聖なるものと

いふは人との世に上なりしは

ておの事ふあんといふに

されはみかりじり

目 新加物ハ其れ為りハ吾痛なる

く得脱を欲するは

け執いとのゆき

スホウトウトムヤウニヨム
此法と源との

私に養ひて

花 大般若御讀經燒損邪氣之足

之由稻荷明神告貞崇法師給事
見延長八年李王記

美曰死靈ハ追福して令得脱法
カニ其靈の若ト成(云)事不審歟
方ハ如此ル密ノ心ニハお遠ヤ如何

心あり文は久 何 妙

奇宮よりわたり候し、ありふ

秘 歌文ハ神佛とよよとり活ハふり
何 大鏡云ひしハの奇院ハ佛神を奉事ハ

いせ活れとけ院よりハ佛神とよよ
うめ活れ毎朝乃佛念佛しせ候
大奇院撰子 おりしと色いむとていとあ事なれ
ふにむさして祓をれんあ

奇宮寮忌諾内七言 延喜式

佛 タチスクニ
タテコハツイ 經 ソメガミ
キガミ 塔 アラキ

寺 コリタツ
コリダテ 美 香炬 キキウ 僧 カシガ

尾 ツラハス 奇 イモイ
カメナ

花鳥少とのせられり

うんこあて

符籠

おのき成らんこあてとていふていふ

御しよ堂上といふとていふにけい

いせしー 并 いせしよ事と人

いせしよ堂上い実しよせふ事いり

いりいりいりいりいりいりいりいり

おのきや

いせのいり

秘 加茂系や

秘 加茂系し

并 加茂系しーいりいりいりいり

かきあて

いせいりいりいりいりいりいりいり

いりいりいり

秘 かくみかいらけい

堂上のいりいりいりいりいりいり

いりいりいり

いりいり

何

伊勢地酒屋のひのほいさらぬる家

曾保零真若木

万葉あれたか

ゆりともいぬり 葉しとふりてうし

あげのそふ船とりの家ハ丹ぬりまれ小

あし 日なたニ緒とハ曾保ホ

なりふはさくらん

何 まてといふよりちてこま家とのあは

なれとさうよとらまのあは

并 まてといふよりちまのいそのん

らまのいそいそとさくらちあてふれ

ういせりあはうらうらあてふ

美園ちてといふ

秘 女之文 并

二品乃まれ

りまれのあは

并 中巻の心を家

右巻の緒

秘 同車

あましらうとの

并 まらりの後乃日久と成るる心

かひひあつみよき〜むさしむねいあし

^秘 紫上れぬ威乃事成ひひあつみよ

松柏乃の心かくひひあつみよと紫上
りてせ活ひく女之文の清きあり
いまんと人のいり成りてむね氏
あつみよ

なふりういせり

^何 ちまハ一をい〜さら〜あつ〜らねな
ふりういせりよス〜から〜い

^并 奥入ゆりなり〜らりそめて〜い

らまハ一をい〜様

義まらまハ一をい〜様

式るま

^秘 紫上れよ

ちね若

^并 夕霧

いたくゆ〜い

^秘 柏乃の詞 ^并

〜久〜い清きあり

柏乃の詞

い〜いありて

^秘 夕霧詞 ^并

うらあやまきんあひ

柏木れりあはす成さうふかんなひ

り夕方の紫上はと海とかるふて

ういふ

かこまらふかたり

^秘源のこころ

をりこころの 源の月重ツキカ為者せ

ふりこころの

女房こころのあはれさういふ

おさあさりーとせ

うらあやまきんあひ ^可軍統

^也右馬場之軍統はさういふ

さういふ

あゝあてあはしういふ ^禪因 ^みいふ

大寺源氏乃軍統の柏木軍統

常りいふもあゝいふ

いふもあゝいふの時之柏木

^秘花況いふ只不自に由ゆんらりー

涅槃經 義戒之

はらへりしはらへ

原は業とのむけ物さうりて業もたふひ
合せぬひて留といはれ是下の心さぬ
とむけりうーくさうりてさむおありと
といふれ

はらへりしとんと

業上ないといけふ家おがとや

めういりりうけさせ

義園五戒ハ沙弥戒之不及十戒

何

五戒龍王經一日一夜回持三歸五

戒人生戒三天中取守護又持五

戒人女五神王被護又以清淨心令

常不生他念人者命終時生日摩危

天冠意

要法文曰言五戒者是優婆塞

此云 事男

優婆塞

此云 迎事女

れかこつにきひわねく
紫の清くこつよ源とそひのま
んかこつ

美笑は分り智人も貴人と非笑

乃時ハ心をけりかこつと源とそひ
いふはよきこつてり

美と若も不助親暱も不替

はかちもこつ 源の清くそひ

大月をこつていれくかぬ

美園まこつてとかき源面白く

かぬハ大月ぬるの清く

お乃げの清み

は美なりとこつひ

れまゝかみちうてま

昇 紫上花上れをうりし

うしの人と種

後園林の中を祈し六重院八院中なれ
ハ清淨神といひけしハ大般若最勝王
法華経等也

ありくれしをあは

昇 物乃の氣也

なりやうなるは必らめと 昇 紫上れん

秘

紫上ハ物とありぬらたは清淨ん

まゝしうりけくちうのふと 昇

ちうきししてはゆか 昇 け合のちう

思ひくはるふしハ

昇 紫上ちうのあはと

れいしやうて

昇 紫上あはれん

ちう院ハあはれん

清の女之の清くえハえおりせぬと

ふらひるれはありきぬ

美保

秘

源とたさあへりてされはるはし

いりこりてり

かたもこりて

秘

懐妊の事

あはれたるみねとて

美けあはれたるは因果の場

ぬせ宿執の事

ふとてはたりてり

秘

坊御懐妊と不審とゆへ

院のこりて

女三 懐妊の事

産まうへははるの不審とて

源とたさあへりて

かたもこりて

美

女三のこりてひるは

秘

六の院 源とたさあへりて

二の院の事とがりて

是物徳の事

ほふや

可 詢 喘 日

女君ハ

秘 紫 上

うらあ〜らかり

美霞うら髪よりまのこころいひ

しせ

あ〜ら〜ら〜み

あのからこも年いふまゝもな

うはら〜こ〜

又ハさをい〜う

可 依 青

又 小 青

美

あ〜りよ白さハ青さやこれハ後ハ

青く白さぬ

美

因前ハ紫と横ノ年〜方然也

并

さ〜ま〜も〜も〜白さぬ〜

ら〜ら〜げ〜

美方〜い〜ら〜深〜く〜物〜

文王方同云

け〜ら〜ら〜か〜

と〜け〜ら〜ら〜か〜の〜

ら〜ら〜ら〜み〜

秘

二 筆 虎 之

あまのつらみしよのまはつ消さる心し

^秘 秋のさうじ世にたてと蓮の心まわつあはれをいふ

^秘 心へいしてあまのなご 涙の奇し

^秘 一蓮抱生れ心後世と秋の心

^美 各留半座棄花臺かして夫婦と一

蓮茂らる心あまも凶な心いなる

清うあつたんとてハか家事あはれ

希表し

いそまうこさば

^美 女三文せ

心あも院をし

今上尊蓮し

なやこまを

女三心

あはらうこさ

^秘 雲上や

かゆを云るうりさや

病れひまや

^弁 紫上れ病乃ひゆたりかきくれ心

美は紫上乃れ心ひまを云るといふなり

いそこ十方うり中腹かきぬぬを云る

とひ

^因 六月の後の心もおあうそは病れひま

美八世公の御事

其公の御事の御事を入りて御事と云
と云の鬼と云

白鳥の御事と云 秘 源八世と云

美 源八世の御事と云と云の御事と云

御事

美八世の御事と云

秘 源八世 秘 源八世

美八世の御事と云

秘 源八世

美 源八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美八世の御事

美八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美 源八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美八世の御事と云 秘 源八世の御事と云

美八世の御事

私秘にてりし御事ありし御事と云

女三乃六世の御事と云 秘 源八世の御事と云

事之業上なるは年久しきこと清き
るにありし心は次乃河にさし入る
くためことあはしてすくはれる

うーはぬみく

美是八源の三人乃事とさひり

紫の石
花の星

たとの事れある

不定なるは事

美是八くもさひりてはれおれ

し源の措置せ

か〜〜てはありはひ〜〜うハ

美はり〜よとひは〜〜てとや

二三〇 井 ぶひウニウ

いふく〜

紫上と心〜あ〜とひの心

いとやをささるゝの世に

^美 葉上と大切なりとみよと女にがの氣と

こゝろくゝいよま

ころ君乃清りあやまら ^美 叶ぬとのこは

葉上れこへ

^秘 女之文 ^美 女之文 我君

女之れ清りかゝりあやまら此おる感ふぬ人

の切運りいよま

行候りいよま

^美 源の二の百おさす候といひこ

^秘 源のけすしと知流りぬさへ葉上りいよま

おゝし流りぬとらの指乃事流源の志

こは流りいよまいよあんとお流り

およぬれ

^秘 指乃 ^美 美

かれりり流り ^美 源の女との清方

ぬい(あゝ)ぬ

^美 葉乃おらせぬと源れ射りいよま

しほつーきほあつー

人ありきれー人のよきもの

むいーき物 女との河舟の事

うーうーのいーあー

ほーの文をういーたしーあつー

あつーうーていぬれとゆはあつー

うーとれーうー

あつーのけーうーあつー あつーあつー

私に好よ信てー 秘 源次

あつーあつー

あつーあつー

あつーあつー

女にうーらあつーあつーあつー

源のあつーあつーあつーあつー

あつーあつーあつーあつーあつー

あつーあつーあつーあつー

あつーあつー 秘 女にうーあつー

あつーあつー 源次

月まらてともいふ家

何 夕屋みハ道あるく一月約ハ夜

ころせこのまあせかん

女三の河 夕屋こをなむしし

美けれうたはるるありあつれせあ

ゆらなりともはるるあれみ

ととととみはるる川あなり道

ふししししししししししし

ししししししし

そのまにりや

日一々の流るし流の細し

^{女三宮}夕屋は神のせむらけはるるくお

^秘じりくくくくくくくくくくく

ととととととととととととと

美日映人のつらひは美芳くし流

ととととととととととととと

よの事ししかしらん家や

かいありあ家 ^美 女三れらるる河は年より

くおん子家振あり

あまの家ーや

はまき

まじ里とけいさんかひよんまはるか歌の歌

^秘二重虎あもまこころぬれおとや(川)

^古こいむしこいよ物こころのあひ書

まこころまこれつ

美かこころよははまよと女ととや

れあひけあこんも

^異えあひこころ活りぬこ希り女と感て成

うみまお神とほれんあおれも

あーかろこいゆりぬまふありそれ

あり又拍子乃みあやはおろけ

たり

まの心あー 葉乃事成るほの心

よのういざりよたこて

^可蝙蝠のね成るま扇をほりり(と)

ありあぬまのな成いよ

^昇この世にりり扇かハホリトいり

秘 今府に

あまの月あつし

を 月あつしといはれぬとらふよあはれをま

まふてかゝりりといふあはれを

秘 捨たぬありし

あまの月のあつしといふ家

秘 まふし乱し 万葉も乱すといふ

よありし

あまの月あつしといふ 可 後深し

それ人のあつしといふ 秘 物あり

あまの月あつしといふ

女このあつしといふ箱乃きせは源の箱

ぬ後之女といふあつしといふ箱

あまの月あつしといふ

あまの月あつしといふあつしといふ

あまの月あつしといふ

小つねのあつしといふあつしといふ

あまの月あつしといふ

むねのさうじかへおひき入る事
あままと小侍う心

あれいげか

秘 源れ心く我身れんはく家い所か

さふじ

とまひぬまへ

秘 源れ二条院へとまへ

あれぬまへ

并 別く

いふいふれはさふじ

秘 小侍う心く

さうじのいこもた心のたあま

并 小侍ちうくさうぬまへんもさうあ

んとさうじとせ

小侍も身よ僻事のおまじへんはじ
の事よさく心とつひゆるうや女く

やせいみとあふとハ袖とみさう心

いげあり

秘 小侍う心く

くれまのりーい

秘 くれまのりーいとくは我らうる物

とよや

いせはつーやとハ

^秘 原の御出ありーハ志々ー運るもあり

けりよとよや

いさよ

^秘 文乃洞

えんさあや

河二乃かハあらん

み乃あは事んげととんあやあつごん

うあんとんとんあし世俗りーい洞え

あれいー

^秘 小竹屋洞

か乃君し

^秘 柏木

まろいーけあはさ海あ

をんまのつー乃事し

かきまてよよはつー一れ事うハ

^秘 志しげんやはつーなよーとあれらよせあ

はつとよや

私あおとよものかこり成入はてあ

てまいあふれと柏とのまひーせさ

まよとえれくへんさうのいふ
た〜ちこのぬこの

ほれ指のみと不審く〜おうとせ

中納玄のてめ〜家りして

^弁 さあ〜ぬ女房乃よお〜や

う〜と〜おひわらり

^秘 舟乃ち舟と〜り〜せきり

い〜く〜や〜に

^秘 源れ夕白の上入のみか成か〜く〜活り

あひせくともあ〜ぬり〜成〜か〜く〜成

とけみのう〜い〜は〜目さ〜か〜し〜や〜み〜原

テ乃直〜ん〜勝月夜のか〜え〜あ〜せ〜た〜ま〜い

後の川と〜う〜い〜活〜り〜弁

^弁 せ活〜し〜も〜か〜く〜う〜い〜活〜り〜落〜ち〜る〜事

し〜や〜の〜の〜目〜さ〜い〜し

さ〜て〜も〜この〜人〜と〜い〜 ^秘 源の心し

け人〜と〜ハ〜指の事〜う〜活〜け〜く〜く〜み〜ま〜を

如この事ある〜し〜

めうしーいさげ

秘 懐妊

人してあつた

因 源のきりーいさげいほまきまきハかひり

なをさりのいさげい

秘 自然ていけいのかとれかりそりさあ

いとあつたあんのいけいおとせ

ましてあまいさげい 秘 柏本しありの家

かきや

いさげいとなり

秘 志すいひのぬりや

何 五條后 そ嗣大臣女仁明后 二條后 中納言長良女清和后

通業平中将 花山女御 元方氏部御女 三條后

通小野宮用白并道信中将

藤景殿女御 法奥院入道女 三条院

承香殿 顕亮大臣女 以上二人通右兵衛

熊頼定

おろりまはけいさげい

秘 さいしーいさげいぬれくまのいさげい

かきりみななまはぬ

^秘け女之文之原ハ草上ト云ハルニ
と女ニハヒクニ

らくのなまはぬ

^因業ノ事ニシテハ
とやめまはれ
女之文衣ノハ

はまろく

るやま

^秘公方ノ事ニシテハ
秘ニシテハ
あり

はまろく

前ノ事ニシテハ
うあま

わらわ

^秘物ノ事ニシテハ
虎ノ事ニシテハ

秘 三つりつふ乃帝し清雲の清事し

五乃むらひえしきし

可 かりり燕し雲のまきりし

いりぬみんまきりん

弁 川く同去日秘お我し

とくあしき ぼれいしおまき

つきあしぱり

ほのろり入ぬふしとぼしとあし

とらぬらんしあふんあふん

まよとくあし

女君 業上二廿

えいあししあしあし

秘 業上れんれをんまきかきし女三

の事成さひなるのみまきの掛量し

秘 業上し視弁

かれまのあしき

いしあし

ほのろりあしし業の上のまき

わ

秘 源の詞

四のさくら

女之のさくら源はら

なむとてふさるのゆみありしは
なり

美 今上より女之のさくらなり

院乃厚んといふ 牛産乃今上より源

とてわいふありしや

あはれといふおがさん事乃

美 是ハ牛産今上事とてひてふ

うめ記のハ 美 曉歎とて歎りて

源のさくら 前より事子れ地といふハ

源の詞

四のさくら 美 今上より源はら

秘 業上の詞

今上れ時略ありしは 美 今上より

女之れ時略ありしは 美 業の奇物

美 今上より源はら

秘 女之事

こころの結りんとはしるるまじ

秘

紫上三木院（かへりあまのこころとれま

へりまを 弄

あまの志り

秘

紫雲上の河

中川より流ひく

源ハ先ハ源院ハかへり流下とせし流の
よもあまふく

日まろへぬ

弁
川の流ひていつまもたより流下

いよまハかへり流ひぬ日まろあま

美さまハ心あ乃日まろとよ

ころ御おこころ

美さハ南分れ日流く前ハ源とのみ

ん流一ウハい流ハ女之乃流カよあま

乃あふなうとよひまろあま

院もこころ一あ一つま

花
紫雲院乃流事

かの人も
美
花

か流事あん

花
か人のみ流流氏乃み流一事

いとあま一く
花のを

ありふさハ 花の庵のまじりて

そらもあつていふ家

何

天眼の事しる 隠密と成すも只知して

天地人我のていふ家申す 天の照賢ハ

才一

胡マをみもあまはあれ

何

友の口も胡マをみあつていふ家

是のひまれうら

美不及月并 并 国土月川并 秘

ふはし

身もまじりあをらて

并

おそろくそらあつていふ家

兼

身もひゆあをら

うさうまあつていふ家

是のあつていふ家

く家柄すれん

あつていふ家

おそろくそらあつていふ家

あーされとちみ成まうーらひいひい事
なまーと年よりかどあはれ物ーあ
とほをらりつすふなほー

いそやまのやん 女まよお

秘物まのし事成やひいぬんとしてかぞ
あーあめし

んまのんまほ 鞠の時的事

ちねのころほ

美々宮描り時勢はけりせし事

まあまの事

美々宮も弟子の地国

まあまの事 井物のか な虎の

んまの事ありある女まのゆきた大
屋まあはうてねのくされも女まあま

いそやまの事

母のありま

美々宮の事

いそ

うらさうぬん

^秘うらさうぬんとして我成さうぬん

かの地へのうらさうぬん

美懐姫の事

私只うらさうぬんは清き心の上の事ありて
さぬく跡とけきとしてさうらうぬんは女に
の清き心ありてさうぬんは女にありて
かきさうぬんは女にありてさうぬんは女にありて

うの女への再会ありてさうぬんは女にありて

井

源氏の女に成さうぬんは女にありて
さうぬんは女にありてさうぬんは女にありて

うらさうぬん

うらさうぬんは女にありてさうぬんは女にありて

うらさうぬんは女にありて

おかしうらさうぬんは女にありて

秘

源のわらうらさうぬんは女にありて

うらさうぬん

是ハ世ヲてひも成事ハもと存入ヨリ
志ヲよ

きらうらかろひ

美 美をえんばけあろく後ハ女と実事

あしハあま

おりのみろくろくこの御心のはら

美 女ニ乃ハ女中

因 女ハ弟子ノ地

さゆ事ハあま

美 拍乃ハ女中ノ海のは

いらいとらあ

女これとれと人のさあすみけなる神

とあろく事

心おれくおハみけ

美 美けあろく事なるやと出

あま

女御のあまなる 秘 御名女御

美 御名女御ノ事ハをほ成りといひ

等 何れも清く正しくいふなりける人こそこそ

なり

とひきかへてみよ

何れもいふにまじりなきをこそ 徳とひきかへて

徳と

かたじけなくいふ

おぼろげなる人へいふにけしきなき人のい
ふ入道してまじりなきをこそい
はれしや

右のいふのいふこそ 玉うつくし

かたじけなく

等 心もまじりなき人のいふ

めくさくさのそらみよ

源の心成りけしきなきをこそいふ
まじりなきをこそいふなり

一とんや

けしきなき 弁ひげらる

けしきなきのいふなり

二重乃内約のかんの若

秘 若乃月夜乃事 并 花名

かきううあうんをらうの事

女乃事なう涼のまひをうま

かたは心よこさうさうかう

女 女之文事

女 女之美乃ゆ事 由勝月夜乃事

さうさううううううううう

まううううう

は乃うは乃うの事

心 心約のかんの若乃よなりゆ事 并 秘

松不いのこと知りこまわい乃と事

いつまよれれかめさうううう

ゆれええ

まうううう

涼のまよらうううううう

女乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

うううううううううう

いぬあしん

^秘 葉也もあつりし

^秘

あまの世とよき世なりやとてはなほまじにたれも流るる

^秘

は勝月をたよみよとてはのらるる

くまきくわつ身をぬのらるる

あまのあまれのや

美后海人 ^{つね} 流ゆをよこしよなる

さゆくなり世乃とて

源らり勝一のみの物

いぬあしん

源らり勝一のみの物

いぬあしん

^可 廻向文執以此功德善及於一切我等

と衆生皆共成佛道

いぬあしん

^秘 尚侍の素懐とてけりし事 院の御事

りし事とてけりし事

^秘

年産院の御事とてけりし事

事し後のさぬけはひりなり
人りのさあり

勝乃後のさふといふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふ

けよ 明石の事成らうとていざいざあしころり

^{名勝月夜} あまよめららちをひとれどんめを海よりうちを

秘

あーの上也いめをよそへんらうとあは

我方也よそをあらうと

秘

きんあはよとれどんめを海よりうちを

うよれ也あーとれうとあまよめ

ゆーとれあは

えうらよハあまよめをいこいせと

あまよめい門とありてあまよめいかに

善門示現のをいひらくあまよめい廻

乃心

れむよハあまよめいかにあは

のす

秘

善及放一切の心

とお家とてゑるにのみおひきし

きんははこなるや

秘 くれありにいさむいおひてななとあし

舟院といきし 権舟院とふれ若と

秘 勝月東し

権舟院出家の事あててんり并

あらの人れありて

かえれをむきし

秘 舟院がもの身女ありしや

ゆきおふさぬりきん

并 権舟院の事ぬゆれなまゆり権

舟院のゆ

かれ人のあまひ 秘 女三女

義 権院二人 同権

私秘に女をいふ家大いあやかり

権院の二人といふもいり舟院

いふいふいふいふ権一人の事を

いふいふいふ

女ご紫——とらん

女子とらん——とらん
事乃るち——よあはち——
のい——

とく——い——人物

前世の宿因ハ親の——
とく

く——あ——か——く

井
源氏乃る——海——あ——

く——い——

私美——

因

男女乃る子——あ——
海の初——あ——
とく——

く——い——

秘
年——

く——い——

源氏乃る子——あ——

別とあつてはうらうらうとくおちせし
たり

わらわと心一

^秘今上元女一文 ^并 堂上元女文
何事と心一

女侍の心いぬあつてはうらうらうとく
せくあつてはうらうらうとく
うらうらうとく

人うらうらうとく ^并 堂上元女文

何事と心一

^集 人うらうらうとく ^并 堂上元女文

それうらうらうとく ^并 堂上元女文

申すうらうらうとく ^并 堂上元女文

あつて

うらうらうとく ^秘 堂上元女文

うらうらうとく ^秘 堂上元女文

^并 妙に命と心一 ^并 堂上元女文
うらうらうとく

かゝりゆりせて

同 掌の公中へ権勝なや

の事し

かゝり君よさぬうり

秘 勝月よ

まゝくゝあまきぬ

昇 勝月東乃尾よなりゆひーハーめされ

くそのくこの女房もまゝ 裁るなり
なり

義 衣しけりて面白

けさあそびのりたのぶ物う

可 東宮切韻云釋氏口袈裟衣二音俗

云計依天上語也云無垢衣入功作
衣孫壇三傳法衣即少門之服也

也 昔乃君のくけさわいけりゆ物なり

六重院のひんりの君

秘 花菱里なり

をうりてい 可 法服也

れまノ字也何みりト云ん

秘

あまのつと申とてかゝるに
—いあり

はくもいさ家の人

可 作物也

秘

今取畑上のあまのつと—畑をたぬ

美石の貝ハ妻くらぬり白ふまのよ

てまのまのつと

清くもわらひのつと—河原のつと

秘

うらひのつと

よもいさのつと

秘

あまのつと—あまのつと

うらひのつと

あまのつとのつと

美始く—美産と—あまのつと

八月秘ハちのつと

私養上れ五月也

秘

夕秀れ母養上れ—夕秀れ

あまのつと—あまのつと

かゝるのつと

義夕雲樂市乃奉行

九月十院乃十大五三三院

秘年産院乃母后九月五月

并弘徽殿右后之心

中十月よと若りまりく心

馬賀十月廿日

姫文いくまり 并女三文

赤子乃所ありりの文 秘赤葉文

九の月よハ

并女三文 赤年産院乃馬賀三月十月

赤子いくまり 赤致仕之心

八の若しまの心 并赤子年産心

りり心まり

秘赤子いくまり 赤出頭ありりと是と心

りり心まり

文いくまり

秘女三文乃懐妊心 并

院をんし 秘源

あゝ〜いよきれおかくて

并 紫上病年あゝいよきれて也

等 行あゝいよき〜

いよきれおかくて

等 牛産之 義因 ちよき〜いよきり

らうたりあゝ〜

あゝいよきり 牛産の女之の懐妊の成
く〜あゝいよき

月うら〜あゝいよき〜あゝいよき

秘

いよきれおかくて

いよきれおかくて

牛産の〜あゝいよき〜懐妊の事なを

いよきれおかくて

いよきれおかくて

いよきれおかくて

あゝいよきり〜あゝいよきり

あゝいよきり〜あゝいよきり

あゝいよきり〜あゝいよきり

いづるみすしありて懐妊しきゆふ
そのまじしらししといふに推量せむ
おろしきまじはり

うらわらるゝなるものちびとがくし

秘

牛産の清心之内裏よきうぬす
衣のうぬ成さくぬくわりの事れ
あまのまうして二重産よほれ
為子うらハいらあふまうしにんよか
牛産の清心せりの林産よきま

いひなふりや

三れをゆふにけり口通あふ

いひりやといふもあふ

松けあふといふもあふ
いひりやといふもあふ
あふれあふよりあふ
あふれあふよりあふ
あふれあふよりあふ
あふれあふよりあふ
あふれあふよりあふ
あふれあふよりあふ

人より成たりしは心かほりぬ
お心とせうては心かほりぬ

花
ふやしといふ詞伴路物借りわりけ物
借よハあまこいあまこい白帯記云凡家
うきりふやしむむむむむむむむ

いよわぶる母

世事の通といはれぬハ牛産院

この通といはれぬハ牛産院

因
け通をよれぬ

おしん

ゆれ女之のかえんわたりて牛産院
と見えぬ

おしん

秘
牛産院乃みれぬ

一月のよるあま

美
牛産院乃みれぬ

世中さびしく

美原の跡をみるはゆかりあり

美原因つて世中さびしく世中故に

ゆかりの跡をみるはゆかりあり

いざいざさびしく 秘原の心 井丸 是より原

氏乃ゆかり

美原産れおあり 美原の心 井丸 是より原

とつり暮かゝつて

志すくせく 美原の心 井丸 是より原

めきそゆれ 美原の心 井丸 是より原

心ゆかり 美原の心 井丸 是より原

美原ゆかり

源氏女之 美原の心 井丸 是より原

心ゆかり 美原の心 井丸 是より原

美原乃清文 美原の心 井丸 是より原

とやゆかり 美原の心 井丸 是より原

ゆかり 美原の心 井丸 是より原

ゆかり 美原の心 井丸 是より原

美 源の女とあはれぬよら事あつた
おとろくハ時略せし物も
同 柏乃事とらと事かしの物なり
らららひて 女の海に
物もひらけ家 くらしとあり
いとあはれぬ海に又はかき
美 女乃心もいたるあはれは事産のみ
とけひきよとじらあたらけ
源のれあはれ

海よりらとらけいあ
秘 又いやうの事とあはれ美
れはハ柏の事とあてこの物
かきまてといそあ
いぬ事とらとあはれ
うら物とよそと 一の事産
秘 一の事産とあはれ女はれ
源のそとあはれ
らららららららららら

美

げよ細よ牛産一うれぬがしむせうと
戸ひくくありきうれをこれ産まと
うらやあひうらや

いせれとい不審せ物のうまひらるる
牛産一うらやあひうらや
たりおつるあまの心

いふとあひうらやのうらや

秘

牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや

弁

牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや

花

牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや
牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや
牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや
牛産乃いふとあひうらや
うらやあひうらや

花

ふしりうとく女こころをよにのみす
いにまいたれいに我をうとくう
松花鳥のまをるふしりうとく
ふ別のうとく海にす

秘

権舟院勝月東うとくわのうとく

いぬしとて海を人夢のうとく

并

兼産所出泉の事

秘

女之交成ありりりす

源井出泉かん事力よたしる海に

なまれとて女之産所ありり

ありとゆりて海にのうとく

ひまにひく

牛産に産つとて出泉かん女之産

ありとゆり

かろしとる人こと

集

後世とるひ

かものかこちありとて得女之産

もそむぬりて海のうとく

ゆす傍ハきりうとく

美 如右女由の事しりまきりかこしは海の
月影乃初し

ふりこの世ふのこけりて

美 海の存生の能くは別業ありてなり
りす徳もそをさるるを

そのかゝ ちのんんん

もろもろかよとてんん

秘 世よりりちを神かひりるもは世よりてを
おしこのぬりてや只女と文一なりん

ともしきふとを

私業よりりて事成りるもいと家
りあはれめをよも交里なとこれ
世よりてててわうぬよりいせを

なうくさうく

んのしらまか事なるんん

院乃西世乃あり 辛 牛産

おもはる家清りみれ

美 女之乃事しんんんの事ありて

なしあつてく牛産乃清心とあはは
あふかたを

あしあもあはは 物乃すあはは

はみいとおそりー

牛産の清乃あははあはは女三の清乃
あんとを

その事とハ

物乃あははあははあははあはは

候のあははあははあははあははあはは

はまてしうらなまはあははは 源へ

美 源は憐慈乃あははあははあははあはは
乃あははあはは

人乃あははあははあははあははあはは
人あははあはは 源へ

秘 せうあははあははあははあははあはは
とや 進止る

ひーあははあははあははあははあはは
ひーあははあははあははあははあはは

二文の

并 藤葉

ゆりめし〜ゆりめし

懐妊しははおしり〜

并 女三宮ははり〜

〜あらあひ〜

霜月〜

〜ゆり〜

馬月〜

御馬月や 并 此字あま〜

又い〜

松懐妊の〜

私い〜

ぬ〜

ひけ〜

女三の〜

の〜

の〜

〜

美 長久保の御殿

此の御殿

かほりの御殿と御殿の御殿
人あやしとあやしと
源の公
久人よつとて

秘 是ハ御殿の御殿と久人よつと

女と文の御殿とかほりの御殿
とつとつとつと

井 源の御殿とかほりの御殿と久人よつと

幸源氏の公

久人よつと 是源の御殿と久人よつと

月と源の御殿と久人よつと

源の御殿と久人よつと

院よりと久人よつと

秘 堂上なる御殿と久人よつと

此の御殿と久人よつと

ちねの御殿と久人よつと

子爵の御殿と久人よつと

かゝりのおとせ

女流の著しきくにありしものひひのこ

六条院よおのすうや

秘

白雲の宮や葦よ一歳乃兄の宮流り

いりて葦よ白の弟よかりの宮流り

外物流し方及不審

并

白雲帝隆宮の在中宮版 白雲の可

勅し葦流し由永正九五十九及葦流して

ありてけし勅お高し

私ゆ名女流の流り流れ事としかけ

て五度後、その後六条院よたの流り

りり成れせしかりの白

と流し、いとけしきして 流り流れ流り

流り

と流しよりの流り 流りの流りな流り

と流しよ右左流りの流り

流り流りの流り

流りの流り流りの流り

ちねハ夕霧うーとくぬ町ハ辰敷里方
てりぐくのやう 酒樂

とくぬの事ハてりぐくの屋
といへり

かろいへいハ 并 辰敷里

おまへ乃地ハ辰敷

^秘辰敷里方せくまうー辰敷一別り
辰敷見地ハ辰敷屋

并 夕霧の辰敷里方ハ辰敷屋

みよてゆ氏乃海方の事ハことハ辰敷
一ありうゝぬ事ハ辰敷ハ一あり
と辰敷

辰敷の辰敷ハことハ辰敷

辰敷と辰敷ハことハ辰敷

^美辰敷ハ辰敷ハことハ辰敷

辰敷ハ辰敷ハことハ辰敷

辰敷ハ辰敷ハことハ辰敷

辰敷ハ辰敷ハことハ辰敷

おふゆれすし

おしくらめり

重なる方なりや

心くさくおりにて

源氏清心

とりよとて

秘 別てありま

ちおしくそ

波江ちん

院よとまありり人院

因 源氏

又牛産

まごいんごらめり

柏乃乃もくきり

まじきちのれみまのうら

源氏柏乃

つぼりし中りりし公なりつね

ゆしりしりあひよかあり

あつとせき

源氏菴中

あひしらい

ゆせくよ

柏乃きゆ

まいしかうりた

秘 年々もかありりたましはみんご

一かちありりるま

美
法中九牛直清い出家れなりかひん
つさくしこゆふ 何月

松清し九但月ともさうりあろ事成る
しりまらりし月しゆえあろ

しとせめしきし 月過く

うられあしーあし

かゆくゆのちみのおくいあし

いみりのゆら

秘
出家めしきしーまふせりいゆり

いよ井ハ括をて出家ハ衣神成り者也

家しーあしゆあ

秘
ゆの子孫 ゆの子孫一家止の事

因
徳家の事しきしー

さうめらしーかひてあん

油めと指子らうのくをせしせん命

てさしーしつるしゆれんさそ月

の神をまわしー述懐しゆれんあ

けいゆあ

ほくあさ

昇

後仕大長著度口人取部也 並

秘

後仕大長著度口人取部也 秘

いづ只よりとある一と一之部公が部一

秘の義を説一

トらうなることとせれ一と

栞本の事一おる一とは因事一は同

如くは因事一は然れ

りよりの事なり

後仕の事一あらはれ一と也

と一と一なることとあひいともひて

是ハ本存一女ニ交乃事わらひ一は

乃と云ふハ源ノ日公等ノ事ニシテ
其ノ事ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
其ノ事ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
其ノ事ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
其ノ事ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

源ノ日公等ノ事ニシテ

源ノ日公等ノ事ニシテ
源ノ日公等ノ事ニシテ
源ノ日公等ノ事ニシテ
源ノ日公等ノ事ニシテ
源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ
乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

乃ハ源ノ日公等ノ事ニシテ

かりおとらるる

夕雲と物事しとらるる

物のしと物事しとらるる

地下伶人あしとらるる

して何れも物事しとらるる

そとや

らまきしと物事し

物乃心と物事しとらるる

心より井妙し

心より物事し

井 花菱星のし

又くおとらるる 物事しとらるる

夕雲と物事しとらるる

おとらるる物事しとらるる

夕雲と物事しとらるる

心より物事しとらるる

清く物事しとらるる

試糸の白糸と物事しとらるる

いさぎよきつらき物事しにひらひらと
のきりそよよとくさくさしたる
かの御笑の日は

苗のれはうらさく成るかおとく
あつたしつゆうらみよさびをめの下は

何 赤白椽 蒲萄條下龍衣

元 義平七年湯成院七十賀舞童五人

服赤白椽蒲萄條下龍衣

きふはあはれうらとくうがね

何 青色麴塵也 蕨芳重

かぐ下あて 樂屋

仙遊霞といふ物 院めくおの十一年の

心くけふあり

何 仙遊霞 太食調曲 拍子十五舞古樂小曲
南宮横笛譜為性調曲

宮れやいさくうらぶらふらふれはれはれはれは

かめきしれはふらひありてはれはれはれは

あまうまはれはれはれはれはれは

いさくわえはいらはれはれは

ふみぬくわさむ梅の花とよけれ
とありしとありてありしき

私妻乃とありの奇とよあり

ひきしのとよのしらぬたりませハ

底乃篇中よ源氏おのしほり或は又皇

太のねと舞思子とありおほく大納言ハ

りとはとれこよありと

いありしと

御食應し

右の大後のにうら御若まき舞思子とあり系圖ニ
右に

大後乃の二御若 夕房子雲井鷹股系圖ニ
右に

兵うの文れ人きりれ若とあり二人

童文と二人ハ童乃清子系圖ニハい

童文とありは母とあり

何 五せとてハ孫とてい

大のないといといの二御若

夕房子の二男母有曲系圖ニ中納言より

或る文の兵清若といひしハ源仲納言

子式る文業上兵清若源仲乃子母とあり

たよわくかこひとほらるるて
ちひあれとらぬれきすらわ
いりかので買人こちりさる地いさ
けいさる

私流抄川ありのせに予も其事次
託し年

未時心くめく 物本なりさむ

とあー心ありてのまよじ
ちさむ心くめく

のほくまぬさくまぬく
あり

いほりあん 物本はれをみんとや
さうあよめぬさくまぬ

ちつあぬさくまぬ
ぬたさほよりちつあぬのほく
私なりあ

人さけいほあいらくして
と浮物本の實にさく人をたよりるよ

源公の事又有力にあて
拜玉の事よりさきとて
右より入る源公の打あての事
さきとて 源氏とて
源公解つる事とてこの事
也

いしむねつらねく

柏木乃公は忠仰とらうよの事
むねつらねく

うしむねつらねく

^秘酒とてのみねく

いしむねつらねく 源の事とて

むねつらねく

なすの事とて

柏木の事とて

ゆとてぬふ事とて

明順奉咒詔後一條院之由御堂
用白令因給召明順直召同給明

須湯家吐血死ニ見果花物語
此等倒叙

まじいのおとろく〜まじい〜あつねと

舟 柏木よきりある〜今いけい碇まよと

松つねの碇かきまけり〜あつね

不審とらるや

ば〜ま〜と物成とらつら〜

源の常も〜腰〜てかおゆれをよれ

幸し柏木乃我とらつらありけよと

は〜母水の〜

柏木の又母とらと

うれ〜とめて 一葉宮藤華ま 高引と

うれとせよと

よ〜と〜

殺仕乃ちたれ〜と柏木成〜いりよ

如笑のおか〜と 秘 居葉と 舟

心のとら〜あ〜と

秘 け花はりまととら〜と六好梅と

美 平子とつらふいふこゝろと梅

よしとまはるくふいふこゝろと

同 かりとあれりひらとそまふこゝろと

をかりのがとてなりと

松蔭抄は川あふく不なと

かこきふれといふこゝろと

梅子れん

母もよとつら 落葉宮女と

世れとつらとて 梅子のつらと 母は是の

初世らのなとつらとて又母はつらと

つらとつらの病氣つらの時つらの

同とつらとつらとつらとつらと

つらとつらと

トつらと 梅子つらと

美 梅子の心 同 月と又つらと

松梅子の心と

教とつらとつらと

梅子のつらとつらとつらと

あふ

なご世にゆき

白き女を以てははみまらふのこせしを
久しに存命して宿位とてさかあふ
すすりきりて居りんせしれあをせ
さふりの存命不定り成るまは
柏乃原切のこりきりさうらふあふ
しとせ

さうまりのかえれゆらあを

秘

柏乃乃命れ事しとせ

命れさうらん事しとせ

えいせい屋あましく

あまを以てしてえり屋のかい
又心やさくをえいせい屋しとせ
しとせ

私今生よはるりのかこ真途へえ
り屋しとせ

又さうのわり方

秘

柏乃の母し事

まにまに心かたし

桐子の母御あめ時ハ先桐も成心

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくく

人いとおもひなり

落葉乃母洲島花のまじりて

ふあし又あしうやしきり

人あしきりなりけり

^秘 桐子の婿さきり也 并發 致はた

れ桐子の婿さき

しらしきり

桐の母の別一してせしきり事と桐

のいふこと

いはいのめきりさきり

^秘 落葉乃母 しきり

ふいしきりさきり 並發 致はた

おの母御なりけり

なしくくくく

弁

致仕の如く梅子とさうり酒

文のさうり酒

落葉せ

いしくらあけかじりなれん

花

芽花物落依埋病悩の事をいふ

らむはむいときこめてお酒

とこめ酒といふ梅子とさうり酒

心もさうり酒

いしくらあけかじり

心もさうり酒といふ梅子とさうり酒

酒つらむきといふ梅子とさうり酒

くさむ酒つらむ

六条虎

天下の鳥よけといふ梅子とさうり酒

乃妙の致仕といふ梅子とさうり酒

大おのり

夕霧の梅子とさうり酒

一かきさうり酒といふ梅子とさうり酒

此酒を女めらるるなり

養

牛産の御覧十一月廿五日あすりうね
あつゆのあつこくあつあつ

松北御覧試末れ時と委細書と當日
とい畧ナもりけなす南日録と装
まこと試末の御覧卒交のりも

御覧とあつこくあつあつ
今度とあつこくあつあつ
此時八月廿日あつこくあつあつ
あつこくあつこくあつあつ

汗とくさくさあつあつ

秘
月とく

秘
私次とく

女之れ御覧のあつあつ

女三文の事

秘
女三文とくあつあつ

あつあつあつあつ

女之れ御覧と御覧のあつあつ

あつあつあつあつ

あつあつあつあつ

凡てしむとゆりひらさるもの

秘

五十寺 辛午年 年れ教へたりしと云ふハ

仁和寺

河

摩訶訶毘盧遮那毘盧遮那舎那如

次配法報應 玄義七取意

天武天皇四年始於諸寺誦經

孝王託云延長七年九月十七日在

大行諸息四人共於法性寺設辛賀

會其儀本堂毗盧遮那如來像

本蓮院五十寺歟之れハ仁和寺のれ

誦經あるや是常例之摩訶訶毘盧

遮那ハ大日也彼西心の佛ち仁和寺

の佛よりして大日此佛誦經ありしは

なり彼佛ちれ佛ち仁和寺大日佛より

よりとりよのしと事ありしは打ゆを

てハウツと云い振あれと云いをさる

と云ふもや右今并りしは此りしゆ

う人乃公のといへり日神なりとの字

みくれ末の公より傳へけり字ありしに
はきては望州抄をみくれ振りのり因と
く之より傳へ今案義之不足信用

一説云五十寺一寺の名こい 是又足説
一寺よめてハ六十の法智の伝ありや

天慶二年十二月貞信云六十賀太政
官於六十寺法諷誦永延二年二月
十四日法興院大入道六十賀公家今
日法諷誦於六十寺

今案洲賀乃時法智と誦誦ハ年齡の
相成り法智字まふまや 本此法智あり
を本寺よめて法智ありやかのおり
ちハ仁和寺乃圓堂ハ今金剛寺大日
ふ成りや本寺の御誦神別てハ又ハ
和寺圓堂よて摩訶毘盧舍那御誦
經ありとせけ法智ハ事ハ并物かの
まの寺ありしとありしりさあハ御誦
こいふなりとくくさるる法智ハ
法智ハ

在子あとの書にね似たるを

并

五十字ハ中一の字よりまじりおしすれは
守ハ仁和寺の准と仁和寺の山堂は
之金剛界大日之よりひまふ家法法あり
ひまふといふことありてのよ書とあり
け法法古事さゆくは況あり法抄より
わ不裁く或云後漢書逸氏傳韓
康傳云是韓伯休那と一ハ那の字
日下といふ説ハ此物法ハ發法法法と成

さゆくよかき書ハ造りこみされハ
かけねいふ書ハ造りこみされハ
あゆへいふ書ハ造りこみされハ
吹まふいふ書ハ造りこみされハ
とゆく人のこころの

同

韓伯休事ハ中一の字よりまじりおしすれハ
け書とあり一法法とあり

等

韓伯休ハ中一の字よりまじりおしすれハ
とゆく人のこころの

いふ事、法義川せぬ事、とハ韓伯体なり
以、其、如、ノ、字、ノ、弁、章、也、い

又、祈、願、ノ、啓、白、智神方、般若心經大般
若、延、名、又、摩訶、毘盧、舍、那、等、い
て、一、つ、く、啓、と、り、り、是、も、ゆ、い、
い、ひ、て、啓、を、し、行、は、て、書、り、た、る、い、
私、也、一、て、の、多、た、多、然、一、結、語、の、
い、つ、ま、い、く、も、い、ふ、ら、い、ふ、ら、あ、る、

奥、二、に、入、る、方、

弁人、の、心、を、い、は、す、と、入、つ、

年、在、院、清、出、家、の、後、い、は、か、り、う、事、は、是、

同、韓、伯、体、事、

韓、康、字、伯、体、京、兆、霸、陵、人、常、未、藥、名、
山、賣、於、長、安、市、口、不、二、價、三、十、餘、年、時
有、女、子、徒、康、買、藥、康、守、價、不、行、女、子、

怒曰公是韓伯休那

那諾餘声乃不二價乎之
乃賀又





